



取扱説明書

ColorNavigator 7

カラーマネージメントソフトウェア

Version 7.2

重要

ご使用前には必ずこの取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。

-
- ・ 取扱説明書を含む最新の製品情報は、当社のWebサイトから確認できます。

www.eizo.co.jp

-
-
- 1.本書の著作権はEIZO株式会社に帰属します。本書の一部あるいは全部をEIZO株式会社からの事前の許諾を得ることなく転載することは固くお断りします。
 - 2.本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
 - 3.本書の内容については、万全を期して作成しましたが、万一誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
 - 4.本ソフトウェアの使用を理由とする損害、逸失利益などの請求につきましては、上記にかかわらず、いかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
-
-

目次

目次	3	● カラーモードタイプがStandard (STD) / Sync Signal (SYNC) の場合	38
第1章 はじめに	5	3-6. 目標を新規に作成する	40
1-1. ColorNavigator 7について	5	3-7. 目標の内容を変更する	42
1-2. 特長	5	3-8. カラーモードの目標を選択する	47
1-3. ColorNavigator 7の動作条件	6	3-9. 定期的にモニターのキャリブレーションをおこなう	48
● コンピュータ	6	3-10. モニターの調整状態を検証する	50
● モニター	6	3-11. カラーモードの管理	52
● 測定器	7	● カラーモードタイプを変更する	53
1-4. 機種別の制約事項	8	● カラーモードの名前を変更する	53
第2章 セットアップ	9	● カラーモードの有効/無効を設定する	54
2-1. ソフトウェアをインストールする	9	● カラーモードを初期設定に戻す	54
● Mac	9	3-12. 目標の管理	55
● Windows	10	● 目標を追加する	56
● Linux	10	● 目標を削除する	56
2-2. USB接続する	11	● 目標をエクスポートする	57
2-3. モニターが検出できない場合	12	● 目標をインポートする	57
2-4. モニターのウォーミングアップをおこなう	13	第4章 高度な使い方	58
2-5. ソフトウェアをアンインストールする (不要になった場合など)	14	4-1. 内蔵センサーと測定器の相関をとる	58
● Mac	14	4-2. モニターの操作ボタンをロックする	59
● Windows	14	4-3. モニターに資産情報を登録する	60
● Linux	14	4-4. 色見台を調整する	60
第3章 基本的な使い方	15	4-5. 表示装置を測定する	61
3-1. お使いになる前に	15	● 測定結果管理画面の表示	62
3-2. メインウィンドウの開き方	15	● 新規測定	63
● Mac	16	● 測定結果の編集	67
● Windows	18	● 測定結果の共有	67
● Linux	20	4-6. 表示装置のICCプロファイルを作成する	68
3-3. メインウィンドウの構成	21	4-7. エミュレーションをおこなう	70
● カラーモードタイプがAdvanced (ADV) の場合	21	● ICCプロファイル/測定結果を利用する場合	70
● カラーモードタイプがStandard (STD) / Sync Signal (SYNC) の場合	22	● LogView LUTエミュレーションの場合	71
3-4. モニターのキャリブレーションをおこなう	25	4-8. モニターオプション設定	72
● 調整結果を確認する	31	4-9. モニター設定をエクスポート/インポートする	72
3-5. 手動で調整する	33	● モニター設定をエクスポートする	72
● カラーモードタイプがAdvanced (ADV) の場合	33	● モニター設定をインポートする	73

第 5 章 環境設定	74
5-1. ColorNavigator Agentの設定	75
5-2. ICCプロファイル詳細設定	77
5-3. 起動時にモニターの解像度を確認する	78
5-4. ICCプロファイルを適用しない	79
5-5. 品質向上に協力する	79
5-6. 言語の設定	79
● 表示言語を設定する	79
● 表示言語を追加する	80
5-7. 検証目標の管理	80
● 検証目標を追加する	80
● 検証目標を削除する	82
● 検証目標ファイルのフォーマット	82
5-8. ColorNavigator APIを有効にする	84
5-9. ColorNavigator Network接続	85
第 6 章 その他の機能	86
6-1. テストパターンを表示する	86
6-2. バージョン情報を表示する	87
6-3. ソフトウェアのアップデートを確認する	88
6-4. ライセンス情報を確認する	88
6-5. システム情報を表示する	89
第 7 章 こんなときは	90
第 8 章 エラーメッセージ	91
付録	97
商標	97
ライセンス	97

第1章 はじめに

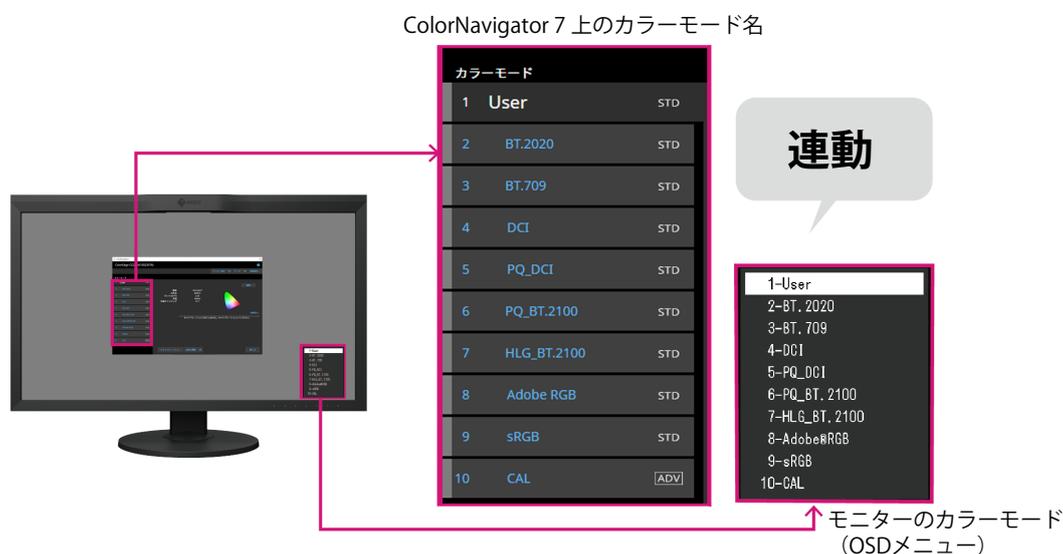
1-1. ColorNavigator 7について

ColorNavigator 7は、優れた色表示性能を備えた当社カラーマネジメントモニター「ColorEdge」シリーズの専用ソフトウェアです。

ColorEdgeとColorNavigator 7を組み合わせることで、モニターのキャリブレーションや、目標の作成/編集、複数台のモニター管理を手間なく正確に実施できます。

1-2. 特長

- ・ モニターのカラーモードと連動し、カラーモードごとに目標を設定可能
ColorNavigator 7でキャリブレーション後は、モニターの操作ボタンでカラーモードを切り替えることで簡単に表示状態を切り替えることができます。



- ・ 写真、デザイン、印刷、Web制作、映像制作などの用途に合わせた目標を豊富に準備
- ・ 用途に合わせたカラーモードタイプを選択可能
ColorNavigator 7のカラーモードタイプには、「Advanced (ADV)」、「Standard (STD)」、「Sync Signal (SYNC)」が用意されています。
カラーモードタイプによってキャリブレーションや手動調整できる内容は異なります。
ご使用の用途に最適な表示状態になるようにカラーモードタイプを選択することができます。
詳細は「[3-11. カラーモードの管理](#)」(P.52)を参照してください。
- ・ スケジュール設定による定期的なキャリブレーションが可能
内蔵センサー搭載のモニターの場合、設定したタイミングで自動的にキャリブレーションを実行します。
(SelfCalibration / SelfCorrection)

1-3. ColorNavigator 7の動作条件

● コンピュータ

共通

- 解像度：モニターの推奨解像度※¹
- USB ポート：2 基以上（内蔵キャリブレーションセンサー搭載機種では1 基以上）の空きが必要※²

※¹ モニターの推奨解像度については、モニターの取扱説明書を参照してください。

※² モニターとコンピュータの接続にEIZO USBケーブルが必要です。

Mac

- OS：
 - macOS Sequoia (15)
 - macOS Sonoma (14)
 - macOS Ventura (13)
 - macOS Monterey (12)
- OS のシステム要件を満たすMac
- 色数：1670 万色以上

Windows

- OS：
 - Windows 11
 - Windows 10 (64ビット版)
- メモリー：対応OSに合わせてください。
- 色数：24 ビット以上

注意点

- ARM版Windowsは非対応です。
-

Linux

- OS：
 - Red Hat Enterprise Linux 8 (64ビット版)
 - Red Hat Enterprise Linux 9 (64ビット版)

● モニター

- EIZO ColorEdge PROMINENCEシリーズモニター
- EIZO ColorEdge CGシリーズモニター
- EIZO ColorEdge CS / CXシリーズモニター

詳細は、当社のWebサイト (www.eizo.co.jp) を参照してください。

● 測定器

注意点

- ・ 測定器はこの製品に付属していません。必要に応じて販売店で別途お求めください。
- ・ 測定器の動作条件および使用方法の詳細は、各製品に付属の取扱説明書を参照してください。
- ・ 同じ測定器を複数台接続して使用しないでください。
- ・ CG3145 / CG3146 / CG1の場合、次の測定器は使用できません。
 - X-Rite i1Display 3、i1Display Pro、i1Display Pro Plus、i1Studio
 - Calibrite ColorChecker Display Pro、Display Plus、Studio
 - Calibrite Display Pro HL / Display Plus HL
 - EIZO EX3、EX4、EX5
 - Datacolor Spyder5、SpyderX、SpyderX2、SpyderPro
 - コニカミノルタ CA-310、CA-310M
 - DK-Technologies PM5639/94

測定器	タイプ	Win	Mac	Linux
モニター内蔵キャリブレーションセンサー ※1	フィルタ	✓	✓	✓
モニター内蔵コレクションセンサー ※2	フィルタ	✓	✓	✓
X-Rite i1Pro 2 / i1Pro 3	分光	✓	✓	-
X-Rite i1Studio Calibrite ColorChecker Studio	分光	✓	✓	-
X-Rite i1Display 3 / i1Display Pro / i1Display Pro Plus ※3 Calibrite ColorChecker Display Pro / Display Plus ※4 Calibrite Display Pro HL / Display Plus HL	フィルタ	✓	✓	✓
Datacolor Spyder5 / EIZO EX3 Datacolor SpyderX / EIZO EX4 Datacolor SpyderX2 Datacolor SpyderPro EIZO EX5	フィルタ	✓	✓	-
コニカミノルタ CA-310 / CA-310M / CA-410 ※5	フィルタ	✓	-	-
コニカミノルタ CS-2000 / CS-2000A ※5	分光			
コニカミノルタ CS-200 ※5	分光フィッティング			
コニカミノルタ MYIRO-1 ※5	分光	✓	✓	-
Klein K-10 / K-10A ※6	フィルタ	✓	✓	✓
Photo Research PR-655 / PR-680 ※6	分光	✓	✓	✓
Colorimetry Research CR-100 ※6	フィルタ	✓	✓	✓
Colorimetry Research CR-250 / CR-300 ※6	分光			
JETI specbos 1211 ※6 JETI spectraval 1501 / 1511 ※6 JETI specbos 2501 ※6	分光	✓	-	-
TOPCON SR-UL1R / SR-5	分光	✓	-	-
DK Technologies PM-5639 / 94	フィルタ	✓	-	-

※1 CG2420 / CG2730の内蔵キャリブレーションセンサーではモニター検証はおこなえません。

※2 SelfCorrectionのみに対応しています。

※3 i1 Display Studioは使用できません。

※4 ColorChecker Displayは使用できません。

※5 ドライバは付属しません。製造元にお問い合わせください。

※6 測定器選択ウィンドウで「自動検出した測定器のみ表示する」をオフにするとリストに表示されません。

1-4. 機種別の制約事項

次の機種をお使いの場合、一部の機能が制限されます。

対象機種

CS230

制限事項

- カラーモードタイプの変更はできません。カラーモードタイプの詳細は「[3-11. カラーモードの管理](#)」(P.52)を参照してください。
 - 「CAL」モード：Advanced (ADV) に固定
 - 「CAL」モード以外：Standard (STD) に固定
- カラーモードが「Custom」 / 「User 1」 / 「User 2」 / 「User 3」以外の場合、手動調整はできません。

第2章 セットアップ

2-1. ソフトウェアをインストールする

注意点

- ・ インストールを実行する前に、動作中のアプリケーションをすべて終了してください。
- ・ ColorNavigator 7は、ColorNavigator 6またはColorNavigator NXと同一の環境にインストールすることはできません。どちらかのソフトウェアをお使いください。
- ・ ColorNavigator 6またはColorNavigator NXがインストールされた環境にColorNavigator 7をインストールするとそれぞれのソフトウェアはアンインストールされます。
- ・ ColorNavigator 6からアップグレードする場合、ColorNavigator 6で使用していた目標はColorNavigator 7に引き継がれます。

参照

- ・ ColorNavigator 7は当社のWebサイト (www.eizo.co.jp) からダウンロードできます。

● Mac

1. ダウンロードした「ColorNavigator7xx.pkg」ファイルをダブルクリックします。

インストーラが起動します。

2. ソフトウェアをインストールします。

画面の指示に従ってインストールします。

注意点

- ・ お使いの環境によっては「"System Events"を制御するアクセスを要求しています。」というメッセージが表示されます。ColorNavigator 7の常駐機能（ColorNavigator Agent）を有効にするために必要ですので、「OK」をクリックしてください。

● Windows

注意点

- ・ユーザーアカウントに「コンピュータの管理者」権限が必要となります。
- ・ユーザーアカウントの権限設定についてはシステム管理者にお問い合わせください。

1. ダウンロードした「CN7xx_Setup.exe」ファイルをダブルクリックします。

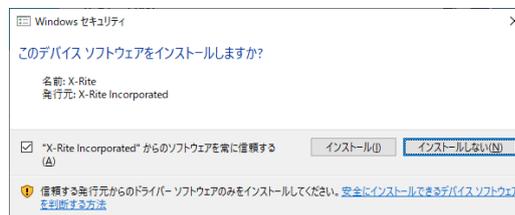
インストーラが起動します。

2. ソフトウェアをインストールします。

画面の指示に従ってインストールします。

注意点

- ・ソフトウェアをインストールする際に、「Windowsセキュリティ」画面が何度か表示される場合があります。表示された場合は、「インストール」を選択し、画面が表示されなくなるまでインストールを続行してください。



● Linux

参考

- ・Linux版インストーラのダウンロードについては、当社映像ソリューション営業部までお問い合わせください。

1. ダウンロードしたファイルを解凍後、「install.sh」を実行します。

インストーラが起動します。

2. ソフトウェアをインストールします。

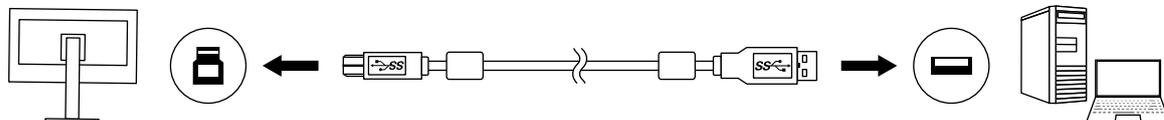
画面の指示に従ってインストールします。

注意点

- ・ユーザーアカウントにroot権限が必要となります。
- ・rootユーザーでの起動はできません。
- ・初回インストール後の起動時のみ、タスクトレイのColorNavigator 7アイコンが表示されない場合があります。その場合は、コンピュータにログインし直してください。
- ・メインウィンドウを開く際に、メインウィンドウを表示するモニターを手動で選択する必要があります。
- ・システム情報を表示した際に、ディスプレイ情報の「モニター名」と「S/N」が表示されません。
- ・常駐時にカラーモードを切り替えてもICCプロファイルの作成がおこなわれません。

2-2. USB接続する

1. モニターのUSB Type-Bコネクタ（アップストリーム）とコンピュータのUSB Type-Aコネクタ（ダウンストリーム）を付属のUSBケーブル（MD-C93またはUU200SS）で接続します。

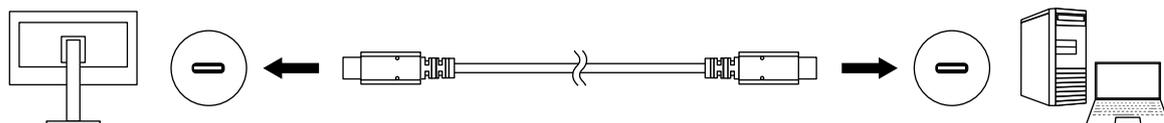


注意点

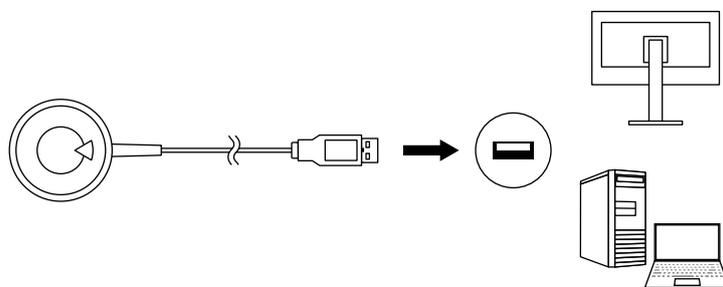
- コンピュータにUSB Type-Aコネクタがなく、Thunderbolt™ 3またはUSB Type-Cコネクタがある場合、市販のUSB Type-C - USB Type-A変換アダプタを追加してください。
- USB Type-Bコネクタ（アップストリーム）が2つあるモニターをお使いの場合、初期設定では「コネクタ 1」が有効です。「1」と記載されたコネクタに接続してください。
- ColorNavigator 7の動作中は、USBケーブルを抜かないでください。システムがハングアップしたり、誤動作を起こしたりする原因となります。

参考

- USB Type-Cケーブルでモニターとコンピュータを接続している場合、この手順は必要ありません



2. 外付けの測定器を使用する場合は、測定器をコンピュータまたはモニターのUSB Type-Aコネクタ（ダウンストリーム）に接続します。



注意点

- 測定器によっては、接続先のUSBポートに制約がある場合があります。測定器の接続については測定器に付属の取扱説明書を参照してください。
- ColorNavigator 7の動作中は、USBポートから測定器を取り外さないでください。システムがハングアップしたり、誤動作を起こしたりする原因となります。

参考

- 内蔵キャリブレーションセンサーを使用する場合は、外付けの測定器を接続する必要はありません。
- ColorNavigator 7をインストールすると、各種測定器のドライバも同時にインストールされます。測定器に付属されているドライバをインストールする必要はありません（Windowsのみ）。

2-3. モニターが検出できない場合

モニターが検出できない場合は、ColorNavigator 7の起動時に次のようなメッセージが表示されます。



モニターが検出できない場合は、次の内容を確認してください。

- ・モニターとコンピュータがUSBケーブルで正しく接続されているか確認してください。（「[2-2. USB接続する](#)」(P.11) 参照。）
- ・コンピュータのUSB Type-Aコネクタ（ダウンストリーム）が複数ある場合、別のコネクタに接続してください。
- ・お使いの環境がColorNavigator 7の動作条件を満たしているか確認してください。（「[1-3. ColorNavigator 7の動作条件](#)」(P.6) 参照。）
- ・ColorNavigator 7の動作条件を満たさないColorEdgeシリーズモニターをお使いの場合は、以前のバージョンのColorNavigatorをお使いください。
- ・コンピュータの電源を切り、再度電源を入れてください。

2-4. モニターのウォーミングアップをおこなう

モニターの電源を入れた直後は、輝度 / 色度が安定していないため、正確な表示ができません。調整をおこなう前にモニターの電源を入れ、ウォーミングアップをおこないます。

注意点

- お使いのモニターによって、ウォーミングアップ時間が異なります。ウォーミングアップ時間の詳細は、モニターの取扱説明書を参照してください。
 - SelfCorrectionをおこなう場合、60分以上のウォーミングアップ時間が必要です。
-

1. モニターとコンピュータの電源を入れます。

2. コンピュータのパワーセーブ設定をオフにします。

ウォーミングアップ中にパワーセーブモードに入らないよう、コンピュータのパワーセーブ設定をオフにします。

注意点

- パワーセーブモードに移行することによってモニターが電源を切ったときと同じ状態になるため、パワーセーブ復帰後はモニターの輝度 / 色度が安定するまでウォーミングアップ時間がかかります。
-

3. 表示解像度や色数を設定します。

モニターの推奨解像度でのご使用をお勧めします。

色数は1670万色（24ビット）以上に設定してください。

参考

- モニターの推奨解像度については、モニターの取扱説明書を参照してください。
-

2-5. ソフトウェアをアンインストールする（不要になった場合など）

● Mac

1. コンピュータのライブラリフォルダを開きます。

参考

- ライブラリフォルダは次の手順で開くことができます。
 - 「control」を押しながらDock上の「Finder」アイコンをクリックまたは右クリックし、メニューから「フォルダへ移動」を選択します。
 - 「/ライブラリ」を入力し、「移動」をクリックします。
-

2. 「Application Support」フォルダから「EIZO」フォルダを選択します。

「EIZO」フォルダが開きます。

3. 「ColorNavigator 7」フォルダから「tools」フォルダを選択します。

「tools」フォルダが開きます。

4. 「ColorNavigator 7 Uninstaller.app」ファイルをダブルクリックします。

参考

- 調整データを含むすべてのデータをコンピュータから削除する場合は、「tools」フォルダの「ColorNavigator 7 Uninstaller Full.app」をダブルクリックしてください。
 - 「フォルダへ移動」で下記を入力すると、直接アンインストーラーが保存されたフォルダに移動できます。
/Library/Application Support/EIZO/ColorNavigator 7/tools
-

● Windows

注意点

- ユーザーアカウントに「コンピュータの管理者」権限が必要となります。
 - ユーザーアカウントの権限設定についてはシステム管理者にお問い合わせください。
-

1. 「スタート」 - 「設定」 - 「アプリ」をクリックします。

2. リストから「ColorNavigator 7」の「アンインストール」をクリックします。

● Linux

参考

- Linux版インストーラのダウンロードについては、当社映像ソリューション営業部までお問い合わせください。
-

1. ダウンロードしたファイルを解凍後、「uninstall.sh」を実行します。

インストーラーが起動します。

2. ソフトウェアをアンインストールします。

画面の指示に従ってアンインストールします。

注意点

- ユーザーアカウントにroot権限が必要となります。
-

第3章 基本的な使い方

3-1. お使いになる前に

お使いの用途やカラーマネジメントの方針に合わせてカラーモードタイプを選択する必要があります。詳細は、「3-11. カラーモードの管理」(P.52)を参照してください。

1つのカラーモードに1つの目標/設定が割り当てられています。使用したい目標がある場合は、Advanced (ADV) に設定されたカラーモードのいずれかにその目標を割り当てる必要があります。詳細は、「3-8. カラーモードの目標を選択する」(P.47)を参照してください。

カラーモードの切り替えは次の方法で可能です。

- ColorNavigator 7のメインウィンドウのカラーモードリストから切り替える。
- ColorNavigator Agentのメニューから切り替える。

参考

- ColorNavigator 7で設定した内容は、モニター本体に保存されます。

3-2. メインウィンドウの開き方

注意点

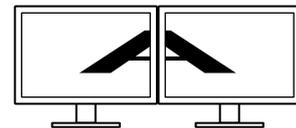
- モニターを2台以上接続している場合は、それぞれのモニターに独立した画面を表示してください。同じ画面をそれぞれのモニターに表示したり、画面を複数のモニターにわたって表示すると、ColorNavigator 7での調整ができません。設定の変更については、当社のWebサイト (www.eizo.co.jp、「マルチモニターの設定方法」で検索)を参照してください。



それぞれのモニターに独立した画面を表示 (○)



それぞれのモニターに同じ画面を表示 (×)



複数のモニターにわたって画面を表示 (×)

- モニターとノートPCを接続してColorNavigator 7を使用する場合、OSの設定でミラーリング表示/複製表示を解除する必要があります。同じ画面をモニターとノートPCに表示すると、ColorNavigator 7での調整ができません。設定の変更については、当社のWebサイト (www.eizo.co.jp、「マルチモニターの設定方法」で検索)を参照してください。



モニターとノートPCに独立した画面を表示 (○)

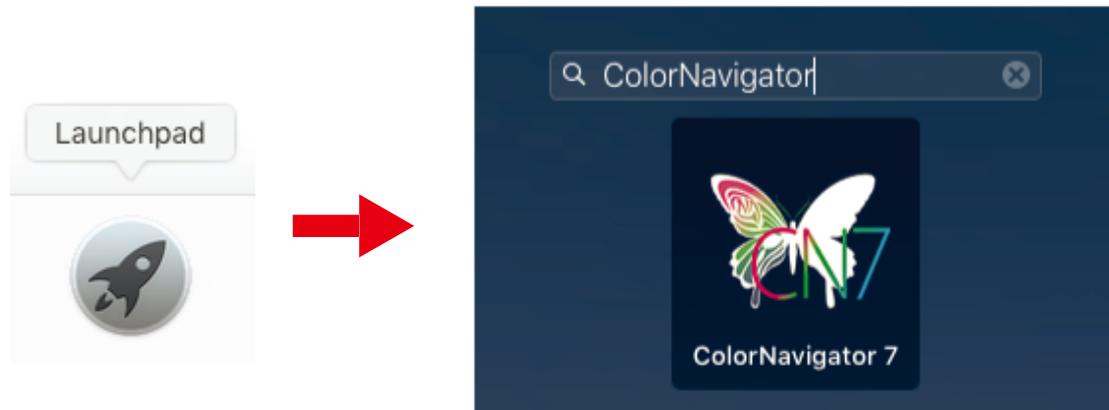


モニターとノートPCに同じ画面を表示 (×)
(ミラーリング表示/複製表示)

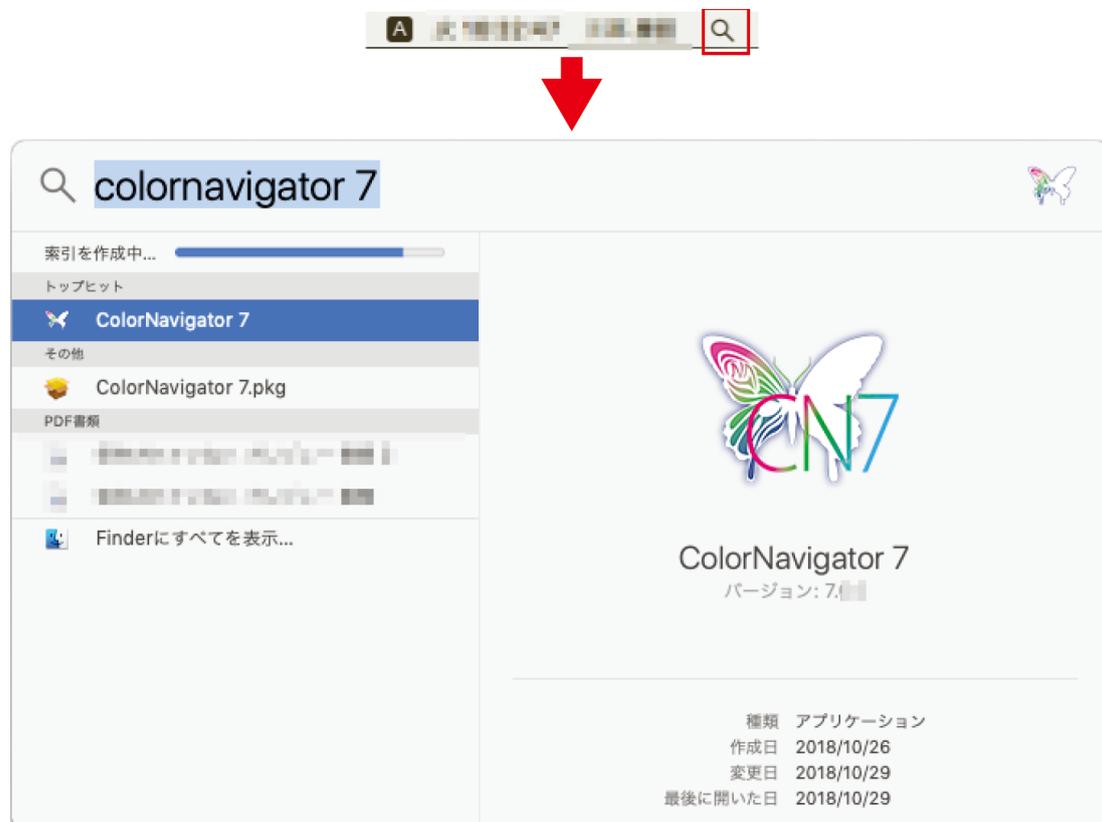
● Mac

次のいずれかの方法でメインウィンドウを開きます。

- 「アプリケーション」フォルダ内にある「ColorNavigator 7」アイコンをダブルクリックします。
- DockのLaunchPadアイコンをクリックして検索エリアに「ColorNavigator 7」と入力し、表示される検索結果から「ColorNavigator 7」アイコンをクリックします。



- メニューバーの検索アイコンをクリックしてSpotlight検索ウィンドウを開き、「ColorNavigator 7」と入力して表示される検索結果から「ColorNavigator 7」アイコンをクリックします。



メニューバーにColorNavigatorアイコンが表示され、メインウィンドウが開きます。

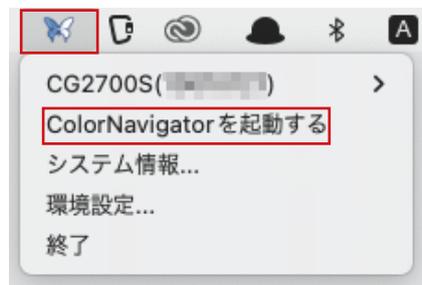


参考

- ・「モニターのUSB接続が確認できません」と表示された場合は、「2-3. モニターが検出できない場合」(P.12)を参照してください。
- ・「スクリーンエラー」と表示された場合は、「9. スクリーンエラー」(P.91)を参照してください。

メインウィンドウが開かない場合は

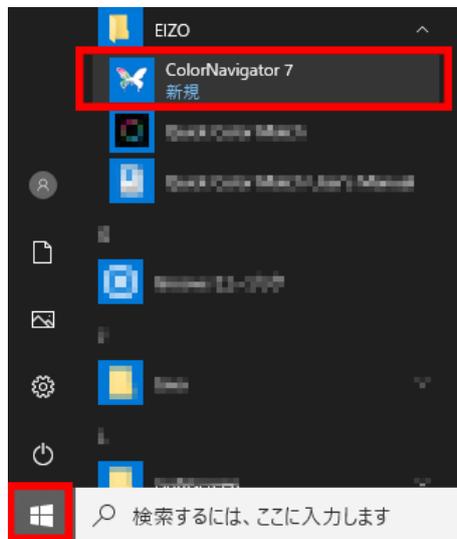
1. メニューバーのColorNavigatorアイコンをクリックしてメニューを開きます。
2. 「ColorNavigatorを起動する」を選択します。



● Windows

次のいずれかの方法でメインウィンドウを開きます。

- 「スタート」 - 「すべてのアプリ」 - 「EIZO」 - 「ColorNavigator 7」をクリックします。



- デスクトップの「ColorNavigator 7」アイコンをダブルクリックします。



大アイコン

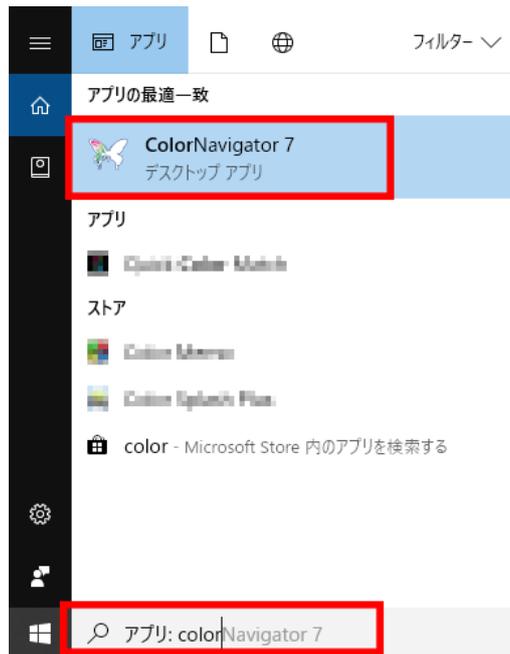


中アイコン

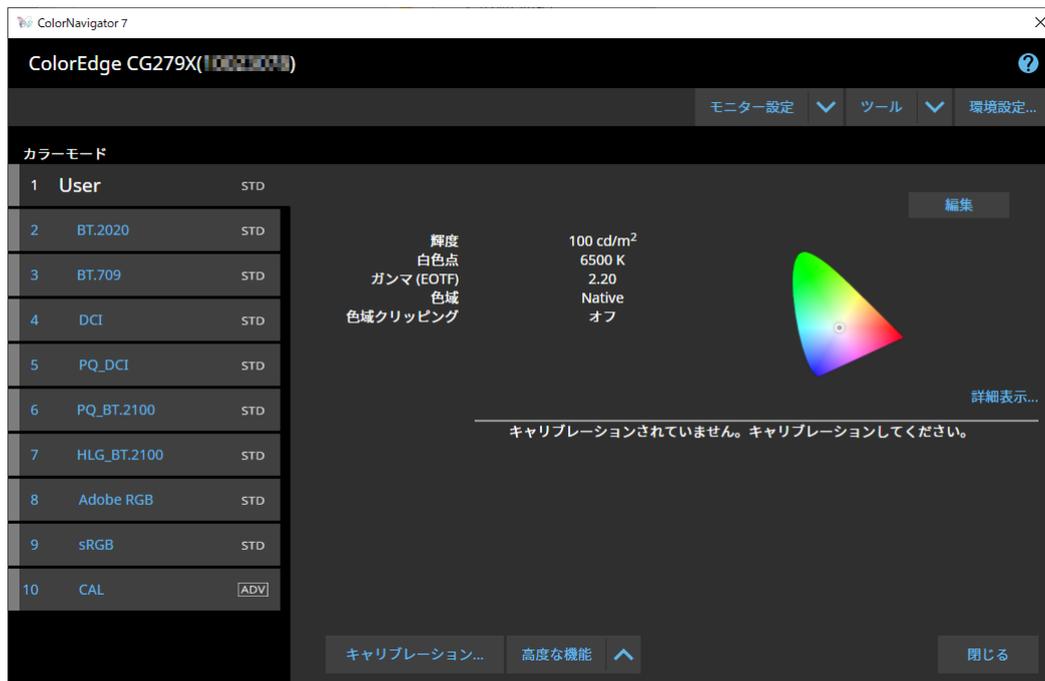


小アイコン

- Windowsのファイル検索で「アプリ」を選択してから「ColorNavigator 7」と入力して表示される検索結果から「ColorNavigator 7」アイコンをクリックします。



タスクトレイにColorNavigatorアイコンが表示され、メインウィンドウが開きます。

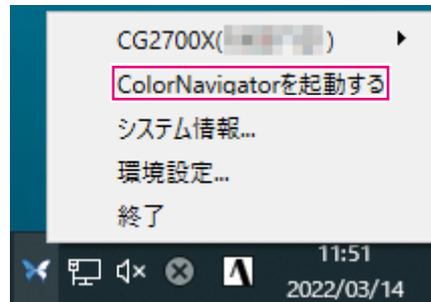


参考

- 「モニターのUSB接続が確認できません」と表示された場合は、「2-3. モニターが検出できない場合」(P.12)を参照してください。
- 「スクリーンエラー」と表示された場合は、「9. スクリーンエラー」(P.91)を参照してください。

メインウィンドウが開かない場合は

1. タスクトレイのColorNavigatorアイコンを右クリックしてメニューを開きます。
2. 「ColorNavigatorを起動する」を選択します。



● Linux

次の方法でメインウィンドウを開きます。

- 「アプリケーション」メニューの「アクセサリ」 - 「ColorNavigator 7」を選択します。

3-3. メインウィンドウの構成

参考

- ColorNavigator 7の初回起動時に、「品質向上プログラム」への参加をお願いする画面が表示されます。「プログラムに参加する」または「プログラムに参加しない」を選択してください。
- 初期設定ではColorNavigator 7は常駐しています（ColorNavigator Agent (P.76)）。
- ColorNavigator 7で調整可能なモニターが複数接続されている場合、調整するモニターを選択する必要があります。

ColorNavigator 7を起動すると最初にメインウィンドウが表示されます。ColorNavigator 7の各機能は、メインウィンドウから選択します。

● カラーモードタイプがAdvanced（ADV）の場合



● カラーモードタイプがStandard (STD) / Sync Signal (SYNC) の場合

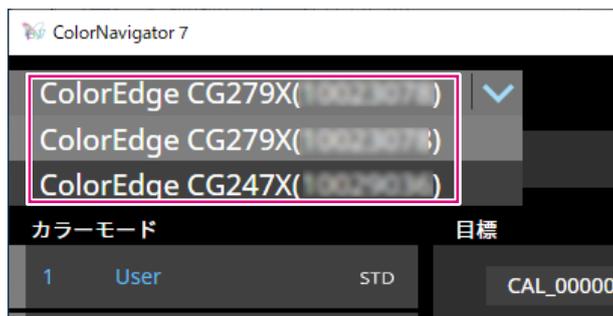


メインウィンドウの主な機能構成は次のとおりです。

● モニター名

使用中のモニターが表示されます。

複数のモニターを接続している場合は、プルダウンメニューから調整するモニターを選択します。



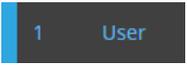
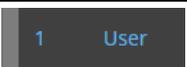
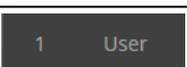
● カラーモードリスト

使用中のモニターに設定されているカラーモードが表示されます。お使いのモニターによって表示されるカラーモードの数や名称は異なります。



状態表示

カラーモードの左端には、現在の状態に応じた色の帯が表示されます。

表示例	有効 / 無効	キャリブレーション	管理方法	経過時間
	有効	実施済	定期キャリブレーション	設定時間内
	有効	実施済	定期キャリブレーション	設定時間を超過
	有効	未実施	—	—
	有効	実施済	なし	—
	無効	—	—	—

カラーモード名

モニターに設定されているカラーモードの名称が表示されます。

カラーモードタイプ

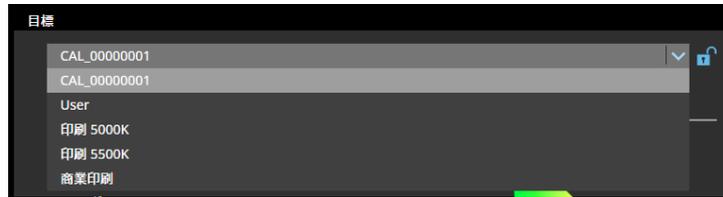
カラーモードのタイプが表示されます。カラーモードタイプの詳細は「[3-11. カラーモードの管理](#)」(P.52) を参照してください。

表示例	説明
	Standardのカラーモードタイプです。
	Advancedのカラーモードタイプです。
	Sync Signalのカラーモードタイプです。

- **目標リスト**

カラーモードタイプがAdvanced (ADV) の場合は、カラーモードに割り当てる目標を選択できません。

鍵アイコン (🔒) をクリックすると、選択中の目標がロックされ、編集や削除ができなくなります。もう一度クリックすると、ロックが解除されます。



- **目標表示エリア / 設定表示エリア**

使用中の目標 / 設定の内容が表示されます。

- **ヘルプ**

別ウィンドウで取扱説明書のPDFが表示されます。



3-4. モニターのキャリブレーションをおこなう

モニターのカラーモードを用途に応じて調整（キャリブレーション）します。

注意点

- ・事前にコンピュータとモニターがUSBで接続されていることを確認してください。接続方法についてはモニターのセットアップガイドを参照してください。
- ・外付けの測定器を使用する場合は、測定器がコンピュータ本体またはモニターのUSBダウンストリームポートに接続されていることを確認してください。

1. カラーモードリストでキャリブレーションをおこなうカラーモードを選択します。

モニターのカラーモードが切り替わります。

2. カラーモードタイプがAdvanced（ADV）の場合は、目標リストから目標を選択します。



目標表示エリアに選択した目標の目標値が表示されます。
 カラーモードと目標はご使用の用途に応じて選択してください。

	用途				
	映像制作	Webコンテンツの作成 / 閲覧	作品データの確認 / 編集	作品データの印刷	商業印刷 (高度な調整)
カラーモード	BT.2020 BT.709 DCI など	sRGB	Adobe RGB	CAL	CAL
目標 / 設定	初期設定	初期設定	初期設定	印刷 5000K ^{※1} 印刷 5500K ^{※1}	商業印刷 ^{※1}

※1 設定値は次のとおりです。

	印刷 5000K	印刷 5500K	商業印刷
輝度	100 cd/m ²	100 cd/m ²	120 cd/m ²
黒レベル	最小値	最小値	最小値
白色点	5000 K	5500 K	5000 K
ガンマ (EOTF)	2.2	2.2	2.2
調整方法	標準	標準	グレイバランス重視
色域	Native	Native	Native

参考

- ・ カラーモードタイプがStandard (STD) / Sync Signal (SYNC) の場合、目標の選択は不要です。
- ・ ColorNavigator 6からアップグレードした場合、ColorNavigator 6で使用していた目標が表示されます。
- ・ ColorNavigator NXからアップグレードした場合、ColorNavigator NXで使用していた目標が表示されます。ColorNavigator NXでカラーモードに設定されていた目標がそれぞれのカラーモードに設定されます。
- ・ お使いのモニターにより表示されるカラーモードは異なります。カラーモードの特長や詳細は、お使いのモニターの取扱説明書を参照してください。

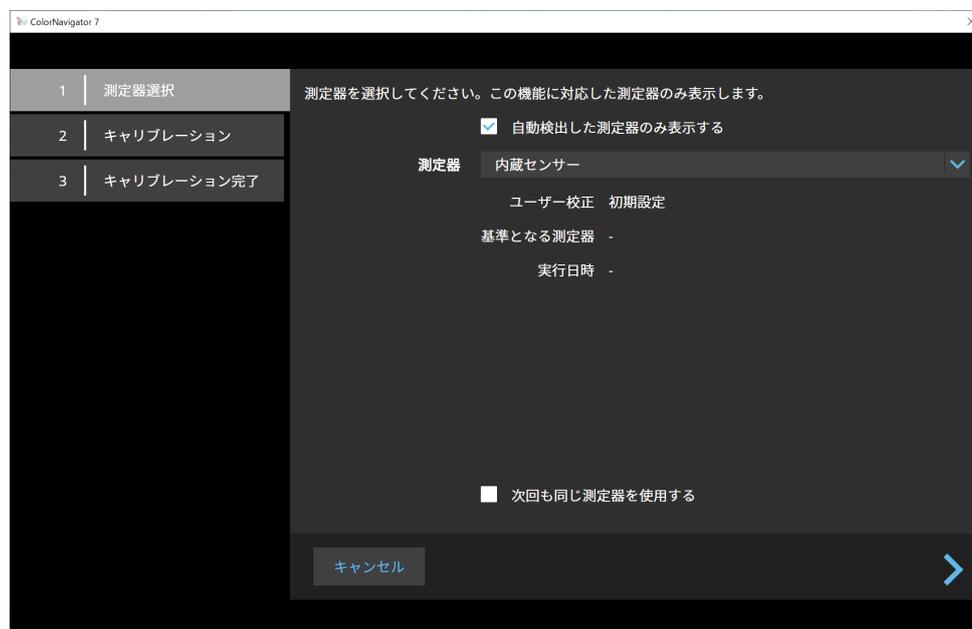
3. 「キャリブレーション」 ボタンをクリックします。



測定器選択画面が表示されます。

4. 測定器を選択し、▶をクリックします。

使用する測定器に応じて、操作方法が表示されます。初期化が必要な場合は測定器を初期化します。測定器の初期化は数秒で完了します。キャリブレーションを中止する場合は、ウィンドウの閉じるボタンで画面を閉じてください。



注意点

- 測定器の初期化は、測定器のセンサー部に光が入らないように注意してください。初期化中にセンサー部に光が入ると、正しい結果を得ることはできません。
- 使用する測定器によっては、「自動検出した測定器のみ表示する」のチェックをオフにする必要があります。対象の測定器については「[測定器](#)」(P.7)を参照してください。
- 次の測定器の場合は、「測定値補正」の現在の設定が表示されます（カラーモードタイプが「Standard (STD)」の場合を除く）。
 - X-Rite i1Pro 2、i1Pro 3、i1Display 3、i1Display Pro、i1Display Pro Plus、i1Studio
 - Calibrite ColorChecker Display Pro、ColorChecker Display Plus、ColorChecker Studio、Display Pro HL、Display Plus HL
 - Datacolor Spyder5、SpyderX
 - コニカミノルタ MYIRO-1変更する場合は、「カスタマイズ」をクリックし、プルダウンメニューから補正方法を選択します。補正方法は次のとおりです。
 - カラーマネジメント
カラーマネジメントを重視した設定です。シングルモニターでの使用に適しています。
 - 複数モニターマッチング
異なるモニター間でのマッチングを重視した設定です。
 - 補正なし
他社モニター検証ソフトウェアと組み合わせて使用するための設定です。測定器の測定値をそのまま使用します。測定器によっては、広色域モニターを正しく測定できない場合があります。
- 次の測定器の場合は、測定器独自の補正機能が使用できます。「補正テーブル」が表示されますので、プルダウンメニューから使用する補正テーブルを選択してください。なお、ColorNavigator 7の測定値補正は無効になります。
 - コニカミノルタ CS-200、CA-310、CA-410
 - Klein K-10、K-10A
 - Colorimetry Research CR-100
- 次の測定器の場合は、「グレイバランス重視」の調整はできません。
 - CG2420 / CG2730の内蔵キャリブレーションセンサー
 - EIZO EX3、EX4、EX5
 - Datacolor Spyder5、SpyderX、SpyderX2、SpyderPro

参考

- ・「次回も同じ測定器を使用する」チェックボックスをオンにすると、次回は現在選択している測定器が自動的に選択されます。
-

5. 外付けの測定器を使用する場合、測定ウィンドウに測定器を設置します。

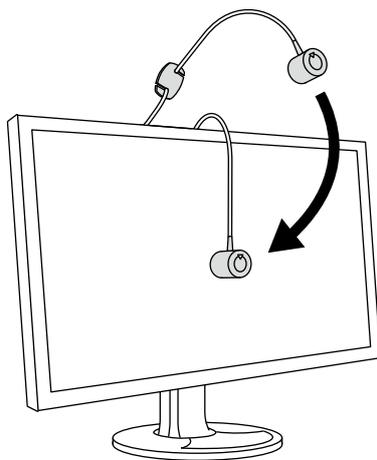
測定器により設置方法が異なります。詳細は測定器の取扱説明書を参照してください。

注意点

- ・モニターおよびOSの設定によって、測定ウィンドウが画面の中央に表示されない場合があります。その場合は、測定ウィンドウに関係なく、測定器をモニターの中央付近に取り付けてください。
-

モニターに接触させて使用する測定器の場合

モニターのパネル面をやや上に向け、測定器を測定ウィンドウに取り付けます。

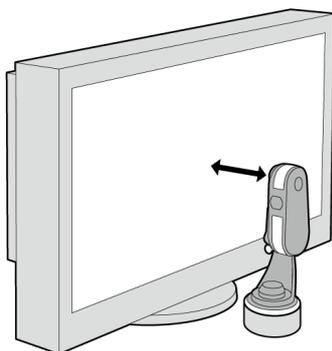


CG3145 / CG3146 / CG1をキャリブレーションする場合

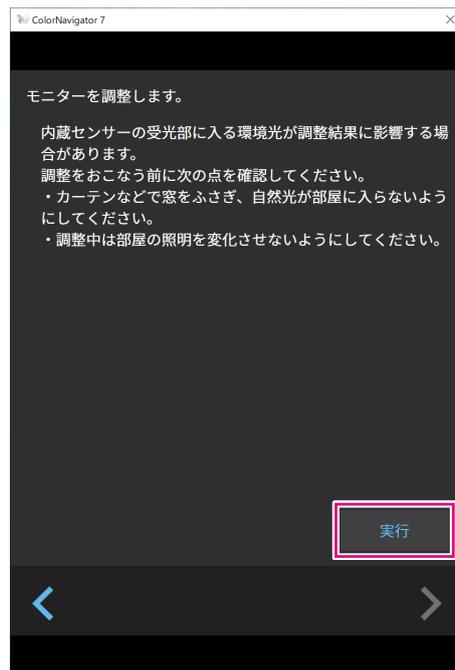
測定器を三脚などに取り付け、パネル面から5 cm ~ 20 cm程度離して設置してください。

注意点

- ・パネルに接触させて測定すると熱がこもり、正確な測定ができません。
-



6. 「実行」 ボタンをクリックします。



測定パターンが表示され、キャリブレーションが自動的におこなわれます。

注意点

- 内蔵キャリブレーションセンサーを使用している場合は、受光部に入る環境光が測定結果に影響する場合があります。測定する前に次の点を確認してください。
 - カーテンなどで窓をふさぎ、自然光が部屋に入らないようにしてください。
 - 測定中は部屋の照明を変化させないようにしてください。
 - 遮光フードの装着をお勧めします。
- 表示される測定器の形状は、使用する測定器の種類によって異なります。
- CG3146 / CG1では、カラーモードタイプがStandard (STD) またはSync Signal (SYNC) の場合、次の理由でキャリブレーションが完了するまでに時間がかかります。
 - キャリブレーション中に高輝度と低輝度での色度をそれぞれ調整します。輝度を切り替えた際に、表示状態を安定させるためのウォーミングアップ時間が必要です。

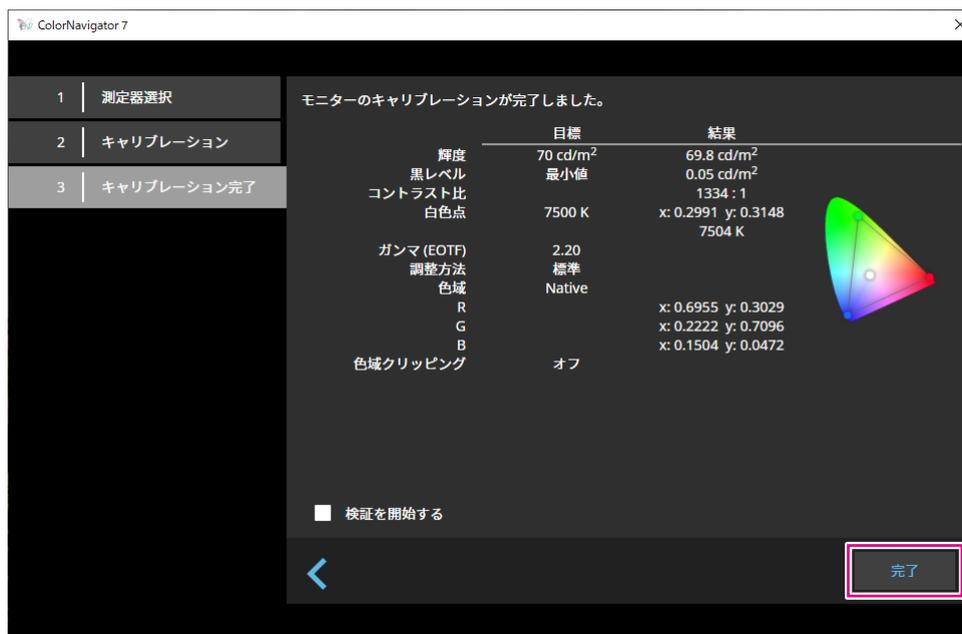
参考

- 次の機種の場合、「測定位置マーカを使用する」のチェックボックスが表示されます。
 - CG2700S、CG2700X、CG3146、CG1、CG2400S
- 内蔵コレクションセンサー搭載機種では、測定器で調整した後に内蔵コレクションセンサーで白色点を測定します。測定結果は、SelfCorrectionを実行する際に参照されます。

キャリブレーション中、画面の右下に進行状況が表示されます。

キャリブレーションが完了すると、キャリブレーション完了画面が表示されます。

7. 「完了」 ボタンをクリックして調整を終了します。



注意点

- 調整に失敗した場合には、エラーメッセージが表示されます。ウィンドウの指示に従ってモニター調整をやり直してください。次の可能性があります。
 - 測定器がモニターにしっかりと装着されていなかった
 - 初期化の時にセンサー部に光が入った

参考

- キャリブレーション完了画面には目標値とキャリブレーション結果が表示されます。「検証を開始する」チェックボックスをオンにして「完了」をクリックすると、モニター検証（現在の状態と目標との差異を検証目標に基づいて検証）を開始します。

● 調整結果を確認する

各カラーモードの調整結果を確認することができます。

1. メインウィンドウを開きます。

2. カラーモードを選択します。

モニターのカラーモードが切り替わり、現在の調整状態が表示されます。

3. 目標表示エリア / 設定表示エリアの「詳細表示」をクリックします。



最新の調整結果が表示されます。「履歴」タブをクリックすると過去の調整結果を表示することができます。



履歴画面では、過去のキャリブレーション結果や検証結果の履歴を表示します。



個別の履歴の「詳細」をクリックするとそれぞれの詳細内容が表示されます。

-  : SelfCalibrationまたは、SelfCorrectionの結果です。
-  : ColorNavigator 7によって調整や検証を実施した結果です。

個別の履歴を表示して、「レポート出力」をクリックするとキャリブレーション結果や検証結果の詳細をレポート出力することができます。

注意点

- SelfCorrectionの場合、「調整結果」には最後に実行されたキャリブレーションの結果が表示されます。SelfCorrectionの調整結果は表示されません。
- 次の機種では、黒レベルとコントラスト比が表示されない場合があります。
 - CG2700S、CG2700X、CG3145、CG3146、CG1、CG2400S

3-5. 手動で調整する

キャリブレーション後の状態から、目視で表示状態を調整することができます。

● カラーモードタイプがAdvanced (ADV) の場合

白色点、輝度、黒レベル、ガンマ (EOTF)、6色 (赤、緑、青、シアン、マゼンタ、黄) の色相と彩度 (機種によっては明度) を手動で調整することができます。調整後、測定器で調整状態の測定をおこないます。

注意点

- ・ 事前にキャリブレーションをおこなう必要があります。

1. Advanced (ADV) のカラーモードを選択します。



モニターのカラーモードが切り替わります。

2. 「高度な機能」をクリックし、メニューから「手動調整」を選択します。



手動調整画面が表示されます。

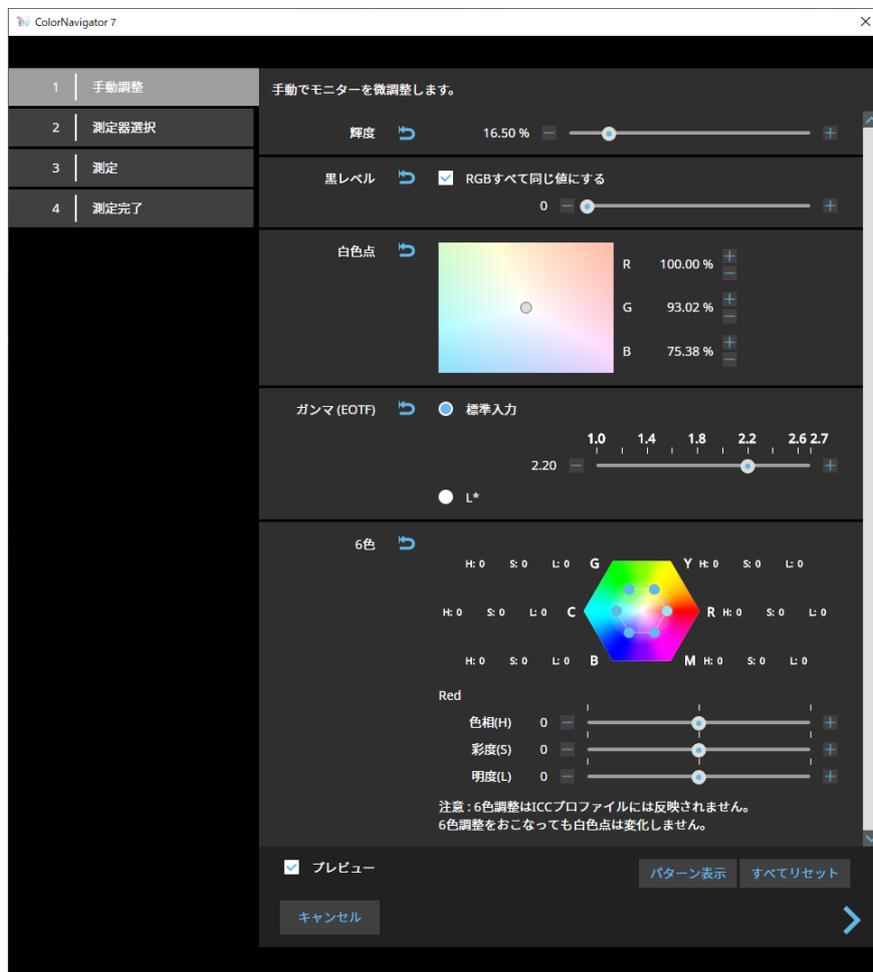
3. モニター画面を見ながら各項目を調整します。

注意点

- ・ 手動調整できる項目は、目標の設定により異なります。設定できない項目は画面上に表示されません。

参考

- ・  をクリックすると各項目の手動調整結果がリセットされます。



項目	説明
輝度	モニターの明るさを調整します。スライダーまたは  、  ボタンを使って値を指定します。お使いの機種によって、輝度の単位は異なります。(cd/m ² または%)
黒レベル	モニターに表示される画像の暗い部分の輝度を調整します。スライダーを使って値を指定します。 参考 ・ 黒レベルを上げると、コントラストが低くなります。
白色点	 ボタンと  ボタンまたは白色点の中のサークル (●) をマウスでドラッグして、白色を調整します。
ガンマ (EOTF)	スライダーを使って値を指定します。
6色	六角形の中の青い丸印 (●) またはR/G/B/C/M/Yの文字をクリックして色を指定し、色相、彩度、明度を示すスライダーを使って調整します。 注意点 ・ ほとんどの場合、調整する必要はありません。
プレビュー	チェックボックスをオンにすると、変更した状態をモニターで確認しながら作業することができます。
パターン表示	調整状態を目視で確認するためのテストパターンが全画面表示されます。
すべてリセット	すべての値を手動調整を開始した時点の値に戻します。

4. 調整完了後、▶をクリックします。

測定器選択画面が表示されます。

5. 測定器を選択し、▶をクリックします。



使用する測定器に応じて、操作方法が表示されます。

初期化が必要な場合は測定器を初期化します。測定器の初期化は数秒で完了します。

外付けの測定器を使用する場合、測定ウィンドウに測定器を設置します。

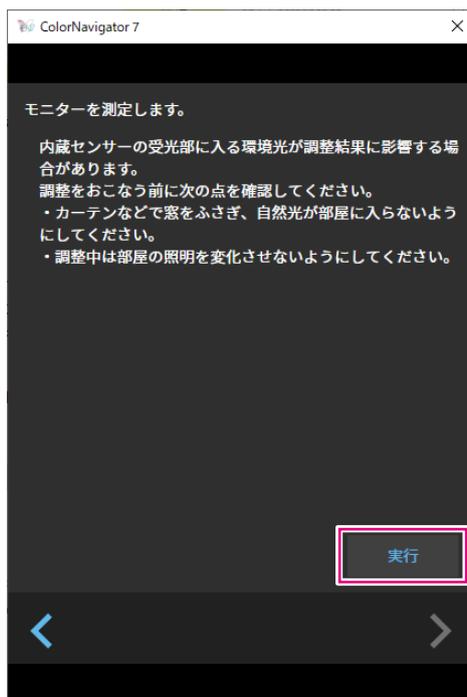
注意点

- モニターおよびOSの設定によって、測定ウィンドウが画面の中央に表示されない場合があります。その場合は、測定ウィンドウに関係なく、測定器をモニターの中央付近に取り付けてください。

参考

- 「次回も同じ測定器を使用する」チェックボックスをオンにすると、次回は現在選択している測定器が自動的に選択されます。

6. 「実行」 ボタンをクリックします。



測定パターンが表示され、測定が自動的におこなわれます。

注意点

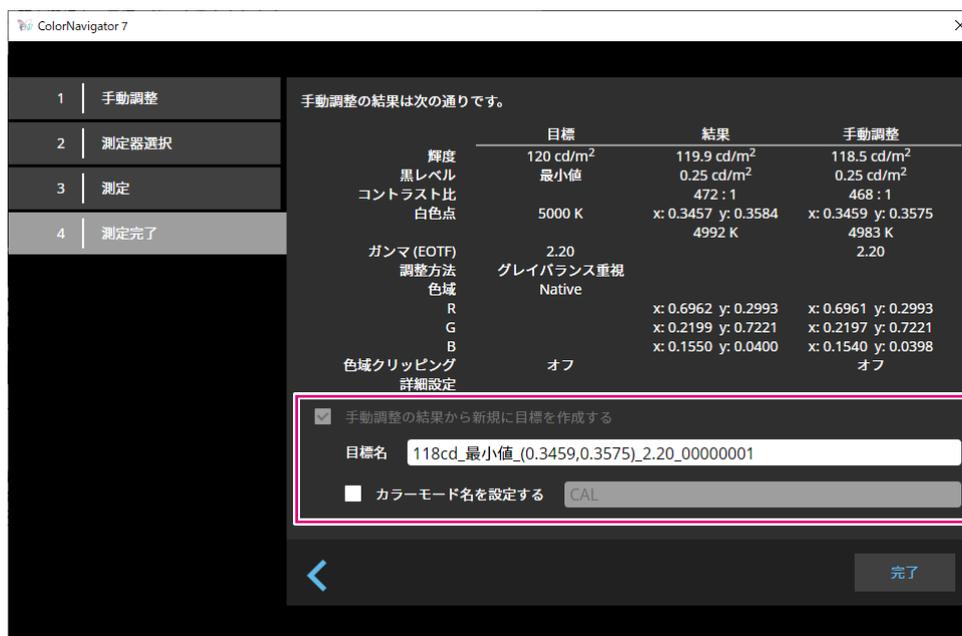
- ・ 内蔵キャリブレーションセンサーを使用する場合は、受光部に入る環境光が測定結果に影響する場合があります。測定する前に次の点を確認してください。
 - カーテンなどで窓をふさぎ、自然光が部屋に入らないようにしてください。
 - 測定中は部屋の照明を変化させないようにしてください。
 - 遮光フードの装着をおすすめします。

測定中、画面の右下に進行状況が表示されます。

測定が完了すると、測定結果画面が表示されます。

7. 手動調整の結果から新規に目標を作成する場合は、「手動調整の結果から新規に目標を作成」チェックボックスをオンにして、目標名を入力します。

新規に目標を作成しない場合は、現在選択中の目標の値に上書きされます。



注意点

- 黒レベルの数値がマイナスとなり、測定に失敗した場合には、エラーメッセージが表示されます。次の点を確認して測定をやり直してください。
 - 測定器を安定した状態で装着 / 設置してください。
 - カーテンなどで窓をふさぎ、自然光が部屋に入らないようにしてください。
 - 測定中は部屋の照明を変化させないようにしてください。

8. 「完了」 ボタンをクリックします。

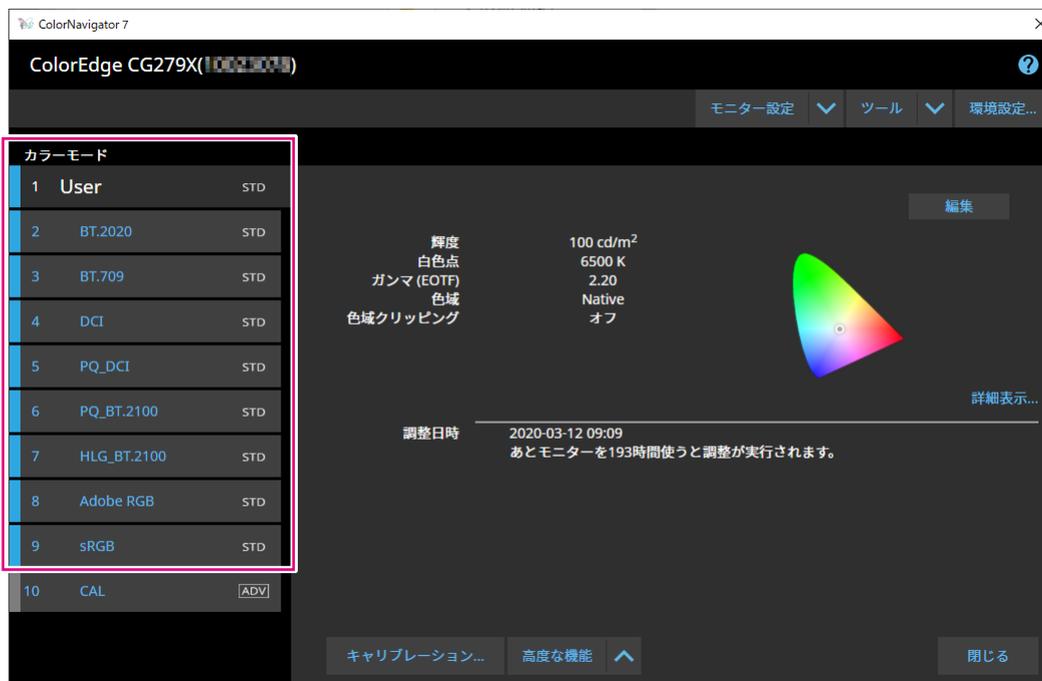
● カラーモードタイプがStandard (STD) / Sync Signal (SYNC) の場合

カラーモードタイプがStandard (STD) の場合、白色点および輝度を手動で調整できます。

参考

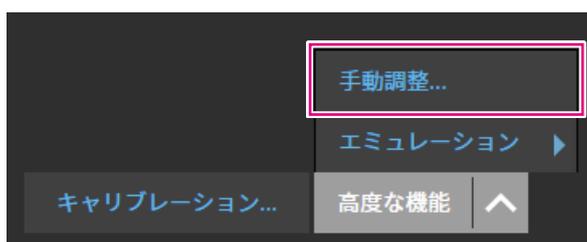
- Sync Signalの場合、手動で調整をおこなえるのは白色点のみです。
- Sync Signalは次の機種でのみ対応しています。
 - CG2700S、CG2700X、CG3146、CG1、CG2400S

1. Standard (STD) またはSync Signal (SYNC) のカラーモードを選択します。



モニターのカラーモードが切り替わります。

2. 「高度な機能」をクリックし、メニューから「手動調整」を選択します。



手動調整画面が表示されます。

3. モニター画面を見ながら各項目を調整します。



項目	説明
輝度	スライダーを移動し、モニターの明るさを調整します。お使いの機種によって、輝度の単位は異なります。(cd/m ² または%)
白色点	⬆ ボタンと ⬇ ボタンまたは白色点の中のサークル (●) をマウスでドラッグして、白色を調整します。
プレビュー	チェックボックスをオンにすると、変更した状態をモニターで確認しながら作業することができます。
パターン表示	調整状態を目視で確認するためのテストパターンが全画面表示されます。
リセット	手動調整を開始した時点の値に戻します。

4. 「OK」 ボタンをクリックします。

3-6. 目標を新規に作成する

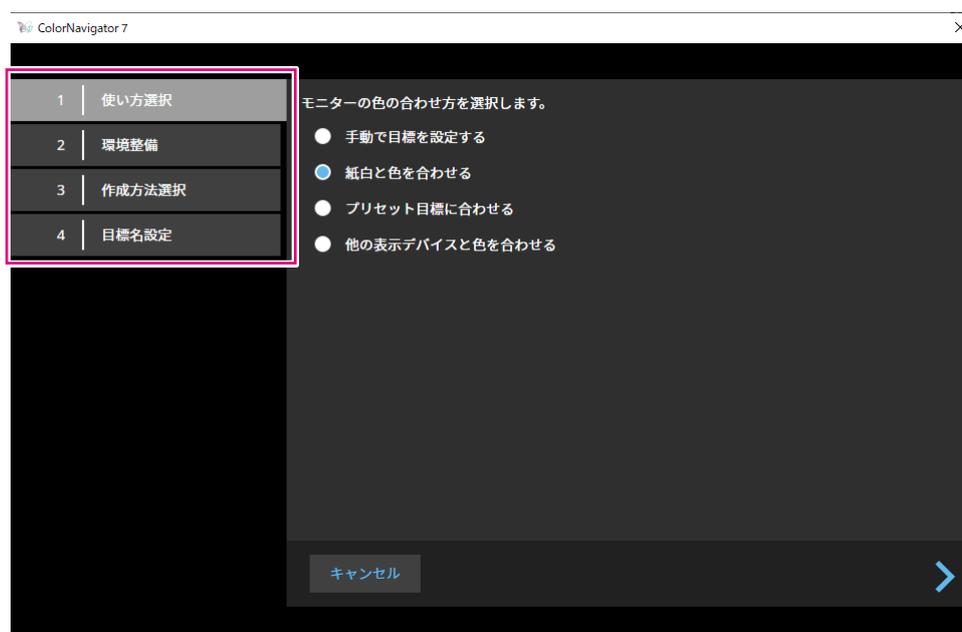
対話形式でメッセージに従って操作をおこなうことで、目標を作成します。

1. Advanced (ADV) のカラーモードを選択します。
2. 「目標の設定」をクリックし、プルダウンメニューから「新規作成」を選択します。



目標作成ウィザード画面が表示されます。

3. 画面の指示に従って設定をおこないます。
選択する項目によって、次に表示される設定画面が異なります。



手動で目標を設定する

- 目標の各項目を手動で設定します。

紙白と色を合わせる

- 画面の指示に従ってお使いの環境が適しているか確認します。
- 目標の作成方法を選択します。
 - 印刷に適した設定を元に目標を作成する
 - 紙を測定し、その測定値から目標を作成する
 - 環境光を測定し、その測定結果を元に目標を作成する

プリセット目標に合わせる

- プリセットリストから、使用するプリセットを選択します。

他の表示デバイスと色を合わせる

- 目標の作成方法を選択します。
 - 既存の目標から作成する
 - ICCプロファイルを読み込む
 - 対象のモニター、表示デバイスを測定する

4. 作成した目標に名前を設定し、「完了」をクリックします。

3-7. 目標の内容を変更する

1. カラーモードを選択します。

2. 編集画面を開きます。

- カラーモードタイプがAdvanced (ADV) の場合

1. 目標リストのロックが外れていることを確認します。
2. 目標表示エリアの「目標の設定」をクリックし、プルダウンメニューから「編集」を選択します。

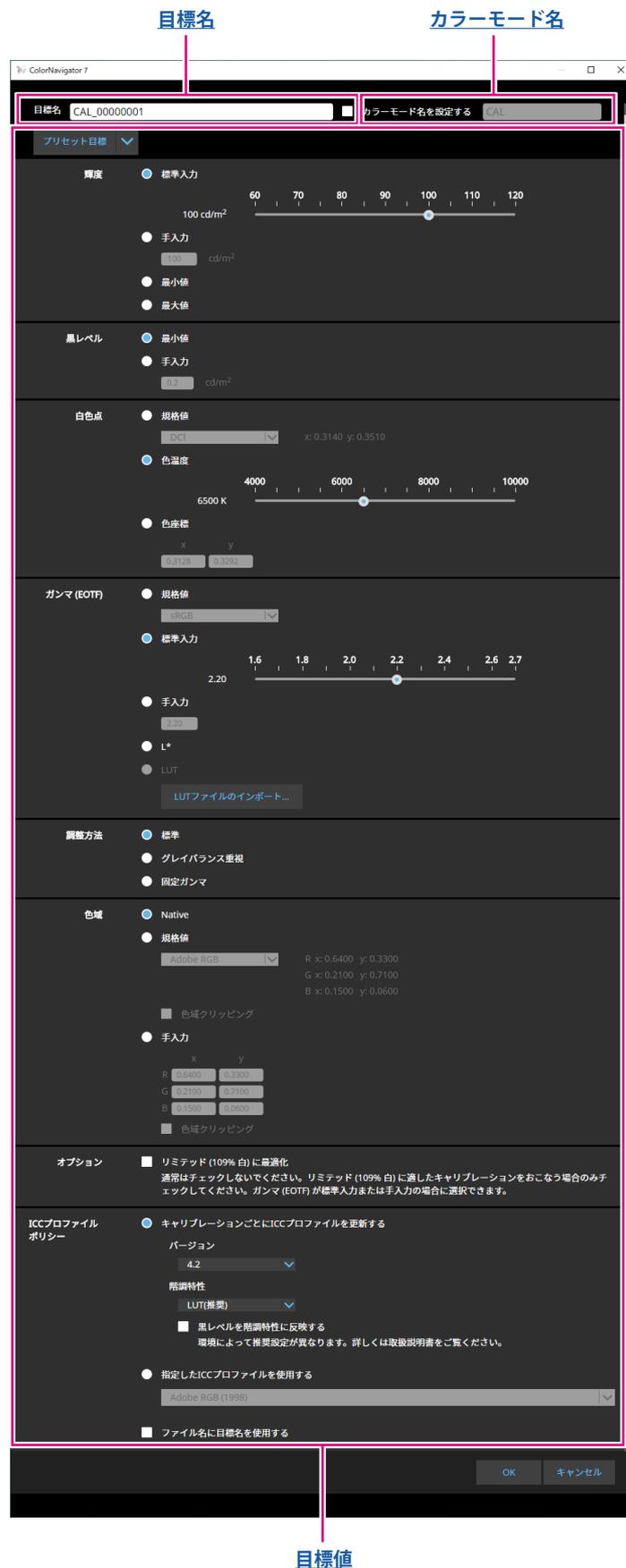


- カラーモードタイプがStandard (STD) / Sync Signal (SYNC) の場合

1. 設定表示エリアの「編集」をクリックします。

3. 編集画面の項目を設定し、「OK」ボタンをクリックします。

- カラーモードタイプがAdvanced (ADV) の場合



目標名

目標名を入力します。目標名を変更する場合は、テキストボックスに表示されている目標名を編集してください。

カラーモード名

目標を設定したカラーモードの名前を変更する場合にチェックボックスをオンにして、設定したいカラーモード名を入力します。

目標値

各項目の値を設定します。

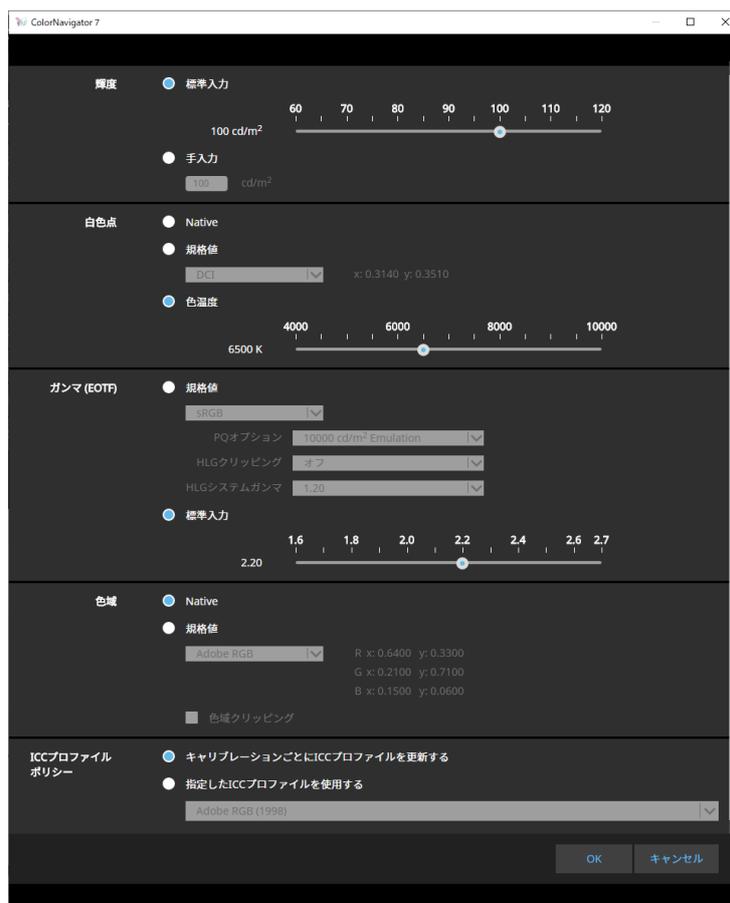
参考

- お使いのモニターによって、表示される項目や選択できる項目が異なります。

項目	設定内容
プリセット目標	プリセット目標をプルダウンメニューから選択します。
輝度	目標輝度を設定します。スライダー使って値を指定する場合は「標準入力」を、数値を直接入力する場合は「手入力」を選択します。また、「最大値」または「最小値」を選択すると現在のモニターの「最大輝度」または「最小輝度」を目標値に設定します。
黒レベル	モニターの黒の輝度を設定します。モニターの最小輝度値に設定するか、手入力で輝度値を設定するかを選択し、設定します。 コントラストが高い場合に黒レベルを上げるとコントラストを下げるができます。
白色点	白色点を設定します。規格値、色温度、色座標から設定方法を選択し、値を設定します。
ガンマ (EOTF)	ガンマ値を設定します。下記から設定方法を選択し、設定してください。 <ul style="list-style-type: none">• 参考にする規格値から設定• ガンマ値をスライダーまたは手入力で設定• L*ガンマ値を指定• LUTファイルを読み込むことでガンマ値を指定 参考 <ul style="list-style-type: none">• 読み込み可能なLUTファイルのフォーマットは次のとおりです。<ul style="list-style-type: none">- データ形式はCSV- 数値の数は256個または1024個- 数値は0以上の整数値または小数値で、右肩上がりに増加すること
調整方法	ガンマの調整方法を次から選択します。 <ul style="list-style-type: none">• 標準（中間調を調整し、低階調の調整はおこなわない）• グレイバランス重視（低階調を含む階調の調整をおこなう）• 固定ガンマ（ガンマ（EOTF）で設定した状態で表示し、階調の調整はおこなわない） 注意点 <ul style="list-style-type: none">• 次の測定器の場合は、「グレイバランス重視」の調整はできません。<ul style="list-style-type: none">- CG2420 / CG2730の内蔵キャリブレーションセンサー- EIZO EX3, EX4, EX5- Datacolor Spyder5, SpyderX, SpyderX2, SpyderPro

項目	設定内容
色域	<p>モニターの色再現域（色域）を設定します。モニターの色域をそのまま使用するか、規格値または手入力で値を設定するかを選択し、必要に応じて値を入力します。</p> <p>「色域クリッピング」ではモニターが表示できない範囲の色の表示方法を設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • チェックボックスをオンにした場合、モニターが表示できる範囲の色は、規格に合わせて正確に表示します。表示できない範囲の色は飽和します。 • チェックボックスをオフにした場合、色の正確性よりも、階調特性を重視して表示します。規格で定義された色域の頂点を、モニターが表示できる範囲に移動します。これにより、モニターが表示できる最も近い色で表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • オンの場合 • オフの場合 <p> — モニターの色域 — 規格で定義された色域 画面に表示する色域 </p> <p>※この図は概念図であり、製品の実際の色域を示すものではありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • この設定は「色域」で「Native」を選択すると無効になります。
ICCプロファイルポリシー	<p>キャリブレーションしたときにICCプロファイルを更新するかどうか設定できます。</p> <p>「キャリブレーションごとにICCプロファイルを更新する」を選択した場合は、「5-2. ICCプロファイル詳細設定」(P.77)を参照して各項目を設定してください。</p> <p>「目標名をプロファイル名として使用する」チェックボックスをオンにすると、目標名が含まれたプロファイル名になります。オフの場合は、カラーモード名が含まれたプロファイル名になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • (製品名) (製造番号) (カラーモード番号) (目標名) 例：CG2700S(00000001)09CAL_00000001 • (製品名) (製造番号) (カラーモード番号) (カラーモード名) 例：CG2700S(00000001)01User
オプション	<p>「リミテッド (109% 白) に最適化」の有効/無効を設定します。リミテッド (109% 白) に適したキャリブレーションをおこなう場合のみチェックしてください。ガンマ (EOTF) が標準入力または手入力の場合に選択できます。</p>

● カラーモードタイプがStandard (STD) / Sync Signal (SYNC) の場合



設定値

参考

- ・ カラーモードタイプがSync Signal (SYNC) の場合は、白色点と色域クリッピングのみ変更できます。
- ・ Sync Signalは次の機種でのみ対応しています。
 - CG2700S、CG2700X、CG3146、CG1、CG2400S

項目	設定内容
輝度	目標輝度を設定します。スライダーを使って値を指定する場合は「標準入力」を、数値を直接入力する場合は「手入力」を選択します。
白色点	白色点を設定します。モニターの初期設定状態とするか、規格値または色温度の値を設定するかを選択し、必要に応じて値を入力します。
ガンマ (EOTF)	ガンマ値を設定します。参考にする規格値を選択するかガンマ値をスライダーまたは手入力で設定します。
色域	モニターの色再現域 (色域) を設定します。モニターの色域をそのまま使用するか、または規格値を選択します。
ICCプロファイルポリシー	キャリブレーションしたときにICCプロファイルを更新するかどうか設定できます。

3-8. カラーモードの目標を選択する

Advanced (ADV) のカラーモードの場合は、カラーモードに割り当てる目標を選択することができます。

1. メインウィンドウを開きます。
2. Advanced (ADV) のカラーモードを選択します。
3. 目標リストから目標を選択します。

参考

- ColorNavigator 6からアップグレードした場合、ColorNavigator 6で使用していた目標が表示されます。
- ColorNavigator NXからアップグレードした場合、ColorNavigator NXで使用していた目標が表示されます。ColorNavigator NXでカラーモードに固定されていた目標がそれぞれのカラーモードに設定されています。



選択した目標の調整状態が表示されます。

3-9. 定期的にモニターのキャリブレーションをおこなう

モニターの使用時間や日付などのスケジュールを設定し、定期的にキャリブレーションを実行することができます。

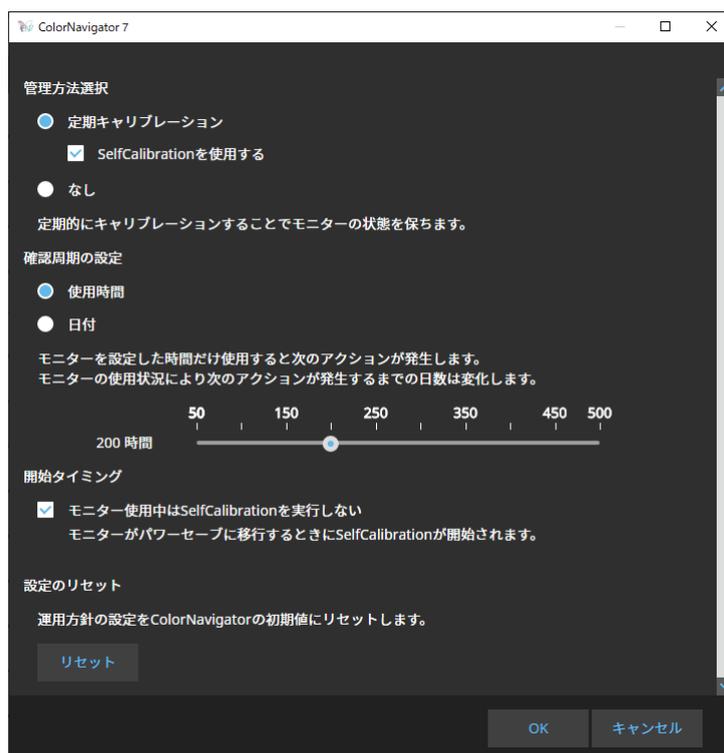
参考

- ・ モニターを長時間使用すると、輝度や色域が変化します。そのため、定期的に調整をおこなうことをお勧めします。
- ・ モニター調整は1か月～2か月に一度を目安に実行してください。
ただし次の作業をおこなった場合は、定期的な調整の実行と関係なくモニター調整をおこなってください。
 - ICCプロファイルを適用する必要がある場合に、モニターに接続するコンピュータやグラフィックスボードなどを変更したとき
 - コンピュータやグラフィックスボードの接続をモニターの別のコネクタ（例：SIGNAL1 からSIGNAL2）へ変更したとき（CS230のみ）
 - ICCプロファイルを適用する必要がある場合に、モニターの解像度や色数を変更したとき
 - DUEプライオリティを変更したとき

1. メインウィンドウを開きます。

2. 「モニター設定」メニューをクリックし、プルダウンメニューから「管理方針」を選択します。

管理方針画面が表示されます。



管理方法選択

項目		機能の概要
定期キャリブレーション	SelfCalibrationを使用する	定期的にColorNavigator 7を使ってモニターを調整します。 内蔵センサー付きのモニターをお使いの場合、SelfCalibration / SelfCorrectionを利用できます。 内蔵センサーがない場合、ColorNavigator 7から調整時期が通知されます。
	SelfCorrectionを使用する	
なし		定期キャリブレーションをおこないません。

参考

- SelfCalibrationおよびSelfCorrectionは、ColorNavigator 7で調整した状態を維持するための機能です。ICCプロファイルは更新されません。ICCプロファイルの更新が必要な場合はColorNavigator 7で調整をおこなってください。
- カラーモードタイプがAdvanced (ADV) の場合は、事前にColorNavigator 7で調整をおこなってください。

確認周期の設定

定期キャリブレーションの確認周期を設定します。

項目	機能の概要
使用時間	モニターを実際に使用した時間を基準にする設定です。 モニターの使用時間が設定値に到達すると、次の定期キャリブレーションが実行されます。
日付	経過時間を基準にする設定です。 次の定期キャリブレーションを実行するまでの時間を設定します。

開始タイミング

項目	機能の概要
モニター使用中にSelfCalibrationを実行しない	チェックを入れると、モニターの使用中はSelfCalibrationが実行されなくなります。 モニターがパワーセーブに移行するときにSelfCalibrationが開始されます。

設定のリセット

管理方針の設定を初期値に戻します。

3-10. モニターの調整状態を検証する

モニターの調整状態と目標の検証をおこないます。モニター検証をおこなうことで、モニターの調整状態が目標とどの程度一致しているかを検証することができます。検証に使用するカラーパッチを表示してモニターを測定し、ICCプロファイルから導かれる値との一致度合いを検証します。

注意点

- ・モニター検証はAdvanced (ADV) のカラーモードでのみ実行できます。
- ・CG2420 / CG2730の内蔵キャリブレーションセンサーではモニター検証はおこなえません。
- ・LinuxではCMYK検証は実行できません。
- ・ColorEdge CS / CXシリーズおよびCG3145 / CG3146 / CG1では、CMYK検証はできません。
- ・内蔵キャリブレーションセンサーを使用してCMYK検証をおこなう場合、システム環境またはソフトウェアによってはツールバーやメニューバー、Dock、タスクバーが内蔵キャリブレーションセンサーのセンサー部にかかり、正しくCMYK検証をおこなえない可能性があります。メッセージに従ってウィンドウを移動し、カラーパッチがセンサー部に表示されるようにしてください。
- ・CMYKタイプの検証目標を用いて検証する場合、カラーパッチを表示するソフトウェアが必要になります。カラーパッチ表示に使用できるソフトウェアは次のとおりです。
 - Adobe® Photoshop® CC 2025 / 2024 / 2023
 - Adobe Acrobat® Pro DC
- ・カラーパッチ表示に使用するソフトウェアのサポートポリシーや動作OSなどの詳細は、それぞれのソフトウェアのサポート情報を参照してください。
- ・マルチモニター環境でCMYKタイプのモニター検証をおこなう場合、カラーパッチを表示するソフトウェアによってはメインモニター（プライマリモニター）のICCプロファイルが適用されることがあります。そのため、検証するモニターがメインモニターになっていない場合、実際よりも検証結果が悪くなる場合があります。検証するモニターをメインモニターに設定して検証をやり直してください。
- ・CMYK検証の評価基準は白色点がD50である前提で作られています。キャリブレーションをD50以外の白色点でおこなった場合には検証結果が悪化する場合があります。
- ・6色の調整結果はICCプロファイルに反映されません。そのため、6色調整をおこなった場合、RGB検証の結果が悪くなる場合があります。

1. メインウィンドウを開きます。

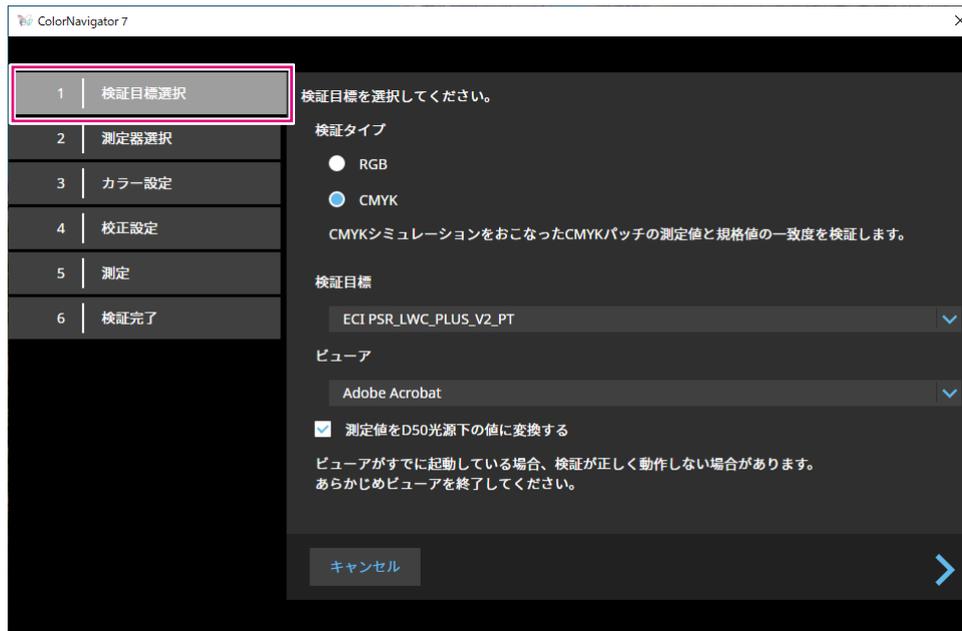
2. Advanced (ADV) のカラーモードを選択します。

モニターのカラーモードが切り替わり、現在の調整状態が表示されます。

3. 「高度な機能」をクリックし、プルダウンメニューから「検証」を選択します。



検証ウィザードが表示されます。



4. 「検証目標選択」の設定をおこないます。

項目	機能の概要
検証タイプ	「RGB」を選択すると、モニターに表示されるRGBパッチの測定値とICCプロファイルの値の一致度が検証されます。 「CMYK」を選択すると、CMYKシミュレーションをおこなったCMYKパッチの測定値と規格値の一致度が検証されます。
検証目標	プルダウンメニューから検証目標を選択します。
ビューア	プルダウンメニューからカラーパッチを表示するソフトウェアを選択します。
測定値をD50光源下の値に変換する	D50以外の光源で検証する場合にチェックします。

設定が完了したら  をクリックします。

5. 「測定器選択」の設定をおこないます。

プルダウンメニューから測定器を選択し、 をクリックします。

ウィンドウの指示に従って、測定器を初期化します。使用する測定器に応じて、操作方法が表示されます。画面の指示に従って操作してください。

初期化が必要な場合は測定器を初期化します。測定器の初期化は数秒で完了します。

6. 「検証タイプ」で「CMYK」を選択した場合は、ウィンドウの指示に従って設定します。

設定が完了したら  をクリックします。

7. モニター検証を開始します。

測定ウィンドウが表示されます。測定器を測定ウィンドウに取り付けます。取り付け方法は、測定器に付属の取扱説明書を参照してください。

「実行」ボタンをクリックすると、測定パターンが表示され、検証が自動的におこなわれます。検証完了までの時間はカラーパッチの数によって異なります。

注意点

- ・モニターに接触させた状態で測定をおこなう測定器の場合は、接触した状態を保ち、測定中のズレを防ぐために、モニターのパネル面をやや上に向けた状態で取り付けてください。
- ・内蔵キャリブレーションセンサーを使用している場合は、受光部に入る環境光が測定結果に影響する場合があります。測定する前に次の点を確認してください。
 - カーテンなどで窓をふさぎ、自然光が部屋に入らないようにしてください。
 - 測定中は部屋の照明を変化させないようにしてください。
 - 遮光フードの装着をお勧めします。
- ・表示される測定器の形状は、使用する測定器の種類によって異なります。

検証が完了すると、検証結果が表示されます。

8. 「完了」 ボタンをクリックします。

「詳細」をクリックすると検証結果が表示されます。

参考

- ・検証結果は「履歴」画面からも確認できます。詳細は「調整結果を確認する」(P.31)を参照してください。
- ・CMYK検証で結果が合格にならないパッチがひとつ以上ある場合は、「履歴」画面の結果の左端にピンク色の帯が表示されます。



3-11. カラーモードの管理

ColorNavigator 7のカラーモードタイプには、Advanced (ADV)、Standard (STD)、Sync Signal (SYNC) があります。

それぞれのタイプの詳細は次のとおりです。

参考

- ・Sync Signalは次の機種でのみ対応しています。
 - CG2700S、CG2700X、CG3146、CG1、CG2400S

	Advanced (ADV) ADV	Standard (STD) STD	Sync Signal (SYNC) SYNC
特長	高精度なキャリブレーションが可能です。目標に黒レベルを設定したり、目標を新規作成したり、キャリブレーション後に6色調整で個別の色ごとに微調整したりできます。細かく調整をしたい方、キャリブレーション後のモニター状態を検証をしたい方におすすめです。	短時間でのキャリブレーションが可能です。いずれか1つのカラーモードをキャリブレーションするだけで、Standard (STD) または Sync Signal (SYNC) に設定されている全てのカラーモードが同時にキャリブレーションされるため、カラーマネジメントに時間をかけられない方におすすめです。	
主な用途	商業印刷などの業務用途、写真印刷	映像制作、Webコンテンツ作成	映像制作
キャリブレーションでの調整項目	輝度、白色点、黒レベル、色域、ガンマ (EOTF) (グレイバランス、LUTを含む)	輝度、白色点、色域、ガンマ (EOTF)	白色点
手動調整で調整可能な項目	輝度、黒レベル ^{※1} 、白色点、ガンマ (EOTF) ^{※1} 、6色	輝度、白色点	白色点

※1 ガンマ (EOTF) の調整方法が「固定ガンマ」の場合のみ、調整することができます。

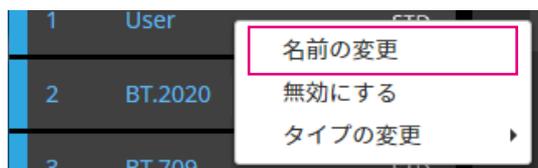
● カラーモードタイプを変更する

1. メインウィンドウを開きます。
2. カラーモードリストでカラーモードを右クリックし、コンテキストメニューの「タイプの変更」からカラーモードタイプを選択します。



● カラーモードの名前を変更する

1. メインウィンドウを開きます。
2. カラーモードを右クリックし、コンテキストメニューから「名前の変更」を選択します。



3. カラーモードの名前を入力します。

参考

- 使用できる文字と文字数には制限があります。

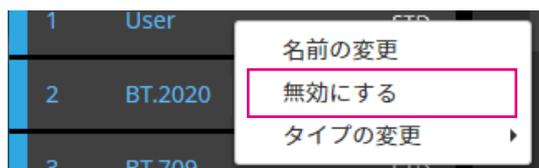
入力が完了したら、キーボードのENTERキーを押します。

● カラーモードの有効 / 無効を設定する

使用しないカラーモードを無効にする

モニターの操作ボタンでカラーモードを選択するときに、特定のカラーモードを無効にすることができます。表示するカラーモードが限定されている場合や、表示状態をむやみに変更したくない場合にご利用ください。

1. メインウィンドウを開きます。
2. カラーモードを右クリックし、コンテキストメニューから「無効にする」を選択します。



カラーモードが無効になり、リストの表示が更新されます。

無効になっているモードを有効にする

1. メインウィンドウを開きます。
2. カラーモードを右クリックし、コンテキストメニューから「有効にする」を選択します。



カラーモードが有効になり、リストの表示が更新されます。

● カラーモードを初期設定に戻す

注意点

・リセット実行後は、リセット前の状態に戻すことはできません。

参考

・カラーモードの初期値については、お使いのモニターの取扱説明書を参照してください。

特定のカラーモードを初期設定に戻す場合

現在選択しているカラーモードのカラー調整値のみを初期設定に戻します。

ColorNavigator 7のメインウィンドウを閉じた状態でモニターの調整メニューを開いて、カラー調整の「リセット」を実行します。実行方法の詳細は、お使いのモニターの取扱説明書を参照してください。

すべてのカラーモードを初期設定に戻す場合

モニターのすべてのカラーモードを初期設定に戻します。

ColorNavigator 7のメインウィンドウを閉じた状態でモニターの調整メニューを開いて、本体設定の「オールリセット」を実行します。実行方法の詳細は、お使いのモニターの取扱説明書を参照してください。

3-12. 目標の管理

ColorNavigator 7は複数の目標を管理することができます。
目標の管理画面は次の手順で開いてください。

1. メインウィンドウを開きます。
2. Advanced (ADV) のカラーモードを選択します。
3. 「目標の設定」をクリックし、プルダウンメニューから「目標の管理」を選択します。



目標の管理画面が表示されます。



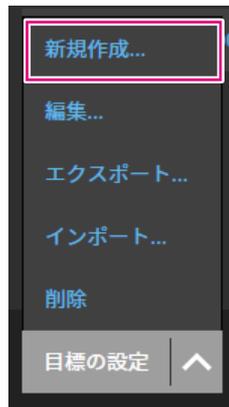
目標リスト

目標リスト

目標リストは上に未使用のもの、下に使用中のものが表示されます。使用中の目標にはカラーモードの番号が付けられています。

● 目標を追加する

1. 「目標の設定」をクリックし、プルダウンメニューから「新規作成」を選択します。



目標作成ウィザードが表示されます。表示内容はお使いの機種によって異なります。

2. 目標を設定します。

詳細は、「3-6. 目標を新規に作成する」(P.40)を参照してください。

追加した目標の内容を変更する方法については、「3-7. 目標の内容を変更する」(P.42)を参照してください。

● 目標を削除する

参考

- ・使用中の目標は削除できません。目標を削除したい場合は、いずれのカラーモードにもその目標を割り当てないでください。カラーモードに割り当てる目標を変更する方法は「3-8. カラーモードの目標を選択する」(P.47)を参照してください。
- ・メインウィンドウからは、次の手順で目標を削除できます。
 1. メインウィンドウを開きます。
 2. 「目標の設定」-「削除」を選択します。
 3. 確認メッセージが表示されたら「OK」ボタンをクリックします。

1. 目標リストから削除したい目標を選択します。

2. 「目標の設定」をクリックし、プルダウンメニューから「削除」を選択します。

3. 確認メッセージが表示されたら「OK」ボタンをクリックします。

目標が削除されます。

● 目標をエクスポートする

参考

- ・ エクスポートされるファイルの拡張子は「cn7target」です。
 - ・ メインウィンドウからは、次の手順で使用中の目標をエクスポートできます。
 1. メインウィンドウを開きます。
 2. 「目標の設定」 - 「エクスポート」を選択します。
 3. ファイル名を入力し「保存」ボタンをクリックします。
-

1. 目標リストからエクスポートしたい目標を選択します。

2. 「目標の設定」をクリックし、プルダウンメニューから「エクスポート」を選択します。

3. ファイル名を入力し「保存」ボタンをクリックします。

目標ファイルが保存されます。

● 目標をインポートする

注意点

- ・ HDRに対応した目標ファイルを、HDR非対応モニターに読み込むことはできません。
 - ・ 次の目標は、その設定に対応していないモニターにはインポートできません。
 - 「リミテッド（109% 白）に最適化」が有効に設定されている目標
 - 白色点に「D65（CRT）」が設定されている目標
 - PQオプションに「Auto」が設定されている目標
-

参考

- ・ インポートできるファイルの拡張子は「cntarget」および「cn7target」です。
 - ・ メインウィンドウからは、次の手順で目標をインポートできます。
 1. メインウィンドウを開きます。
 2. 「目標の設定」 - 「インポート」を選択します。
 3. 目標ファイルを選択し「開く」ボタンをクリックします。
-

1. 「目標の設定」をクリックし、プルダウンメニューから「インポート」を選択します。

2. 目標ファイルを選択し「開く」ボタンをクリックします。

ファイルが読み込まれ、目標が追加されます。

インポートした目標を使用する場合は、カラーモードへの目標の割り当てとキャリブレーションが必要です。詳細は「[3-8. カラーモードの目標を選択する](#)」（P.47）、「[3-4. モニターのキャリブレーションをおこなう](#)」（P.25）を参照してください。

第4章 高度な使い方

4-1. 内蔵センサーと測定器の相関をとる

内蔵センサーの測定結果と、基準とする測定器の測定結果の間の相関をとります（コレレーション）。

注意点

- ・ コレレーションの実行中にモニターのUSB接続が外れた場合、モニターの主電源を切り、再度電源を入れてください。
- ・ 基準となる測定器は1台だけ登録できます。

1. メインウィンドウを開きます。

2. 「モニター設定」メニューをクリックし、プルダウンメニューから「内蔵センサーコレレーション」を選択します。

内蔵センサーコレレーション画面が表示されます。

3. 「内蔵センサーコレレーション」ボタンをクリックします。

初期設定に戻す場合は、「初期設定に戻す」ボタンを押します。

4. プルダウンメニューから基準となる測定器を選択します。

初期化が必要な場合は測定器を初期化します。

参考

- ・ 測定器の初期化は、測定器のセンサー部に光が入らないように注意してください。初期化中にセンサー部に光が入ると、正しい結果を得ることはできません。

5. をクリックします。

6. コレレーションを開始します。

測定ウィンドウが表示されます。

基準となる測定器を測定ウィンドウに取り付けます。 (P.28)

「実行」ボタンをクリックすると、測定パターンが表示され、コレレーションが自動的におこなわれます。

参考

- ・ モニターに接触させた状態で測定をおこなう測定器の場合は、接触した状態を保ち、測定中のズレを防ぐために、モニターのパネル面をやや上に向けた状態で取り付けてください。
- ・ モニターおよびOSの設定によって、測定ウィンドウが画面の中央に表示されない場合があります。その場合は、測定ウィンドウに関係なく、測定器をモニターの中央付近に取り付けてください。
- ・ 内蔵キャリブレーションセンサーの受光部に入る環境光がコレレーション結果に影響する場合があります。
- ・ コレレーションをおこなう前に次の点を確認してください。
 - カーテンなどで窓をふさぎ、自然光が部屋に入らないようにしてください。
 - コレレーション中は部屋の照明を変化させないようにしてください。
 - 遮光フードの装着をお勧めします。
- ・ 表示される測定器の形状は、使用する測定器の種類によって異なります。

7. コレレーション結果を確認します。

コレレーションが完了すると、測定したカラーパッチのRGB値、基準となる測定器およびコレレーション対象となる内蔵センサーの測定結果が表示されます。

参考

- 他の測定器を基準としてコレレーションをおこなう場合や、コレレーションをやり直す場合は  をクリックして設定画面を表示してください。

8. コレレーション結果を確認し、「完了」をクリックします。

注意点

- コレレーション結果に問題がある場合はメッセージが表示されます。メッセージに従ってコレレーションをやり直してください。

参考

- 内蔵センサーの測定結果にコレレーション結果が加味されるため、コレレーション終了後はモニターの調整をおこなうことをお勧めします。

4-2. モニターの操作ボタンをロックする

モニター本体の操作ボタンをロックし、操作ボタンでモニターを操作できないようにします。

1. メインウィンドウを開きます。

2. 「モニター設定」メニューをクリックし、プルダウンメニューから「キーロック」を選択します。

3. 操作ボタンのロック方法をプルダウンメニューから選択します。

項目	ロック方法
メニュー	調整メニューボタン
オール	電源ボタン () を除くすべてのボタン
オフ	なし (すべてのボタンが有効)

4. 「OK」をクリックすると選択したキーロック方法に設定されます。

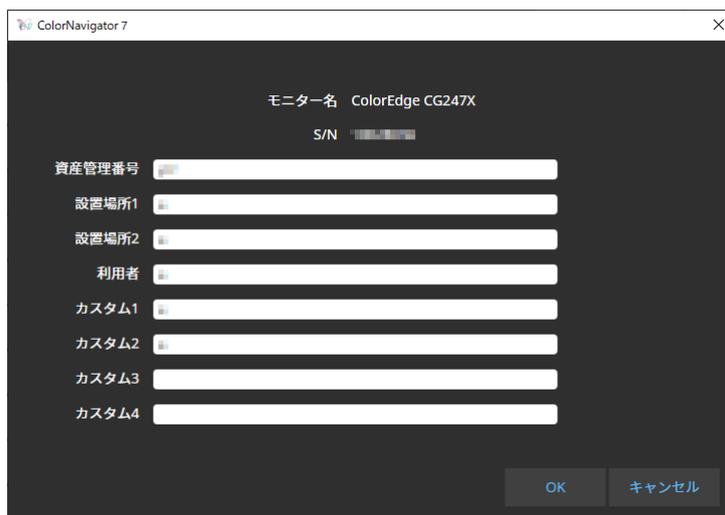
4-3. モニターに資産情報を登録する

モニターに固有の資産情報を登録することができます。

1. メインウィンドウを開きます。

2. 「モニター設定」メニューをクリックし、プルダウンメニューから「資産情報管理」を選択します。

資産情報画面が表示されます。



3. 設定が完了したら「OK」ボタンをクリックします。

資産情報が保存されます。

4-4. 色見台を調整する

色見台の輝度、または照度を調整することができます。

注意点

- 色見台は必要に応じて別途ご用意ください。対応する色見台は次の通りです。
 - JUST Color Communicator1、JUST Color Communicator2
- 色見台の詳細は、色見台に付属の取扱説明書を参照してください。
- 色見台とコンピュータをUSB接続してから色見台を調整してください。
- 照度単位で調整できる測定器は次の通りです。
 - X-Rite i1Pro 2、i1Pro 3、i1Display 3、i1Display Pro、i1Display Pro Plus、i1Studio
 - Calibrite ColorChecker Display Pro、Display Plus、Studio
 - Calibrite Display Pro HL / Display Plus HL
 - コニカミノルタ MYIRO-1
- 内蔵キャリブレーションセンサーでは色見台の調整はできません。

参考

- 調整結果に基づいて目標を作成することができます。

1. メインウィンドウを開きます。

2. 「ツール」メニューをクリックし、プルダウンメニューから「色見台調整」を選択します。

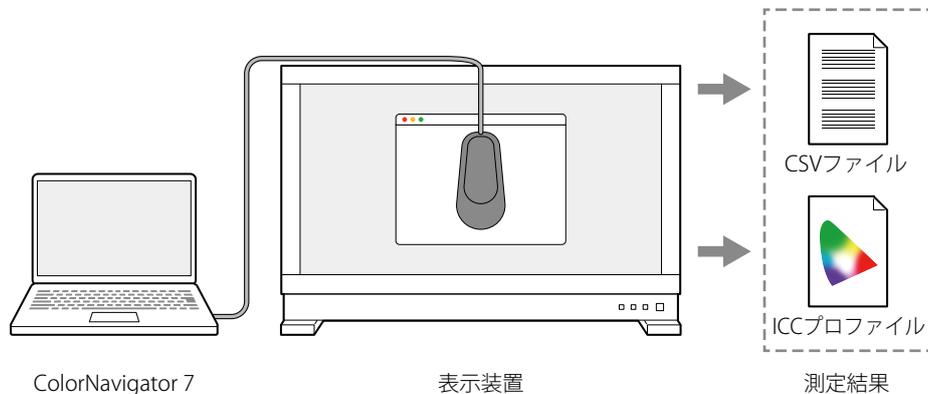
色見台調整ウィザードが表示されます。

ウィンドウに表示される指示に従って設定をおこなってください。

4-5. 表示装置を測定する

表示装置（デバイス）上のWebブラウザに表示されるカラーパッチを測定します。

測定結果を使ってデバイスのエミュレーションをおこなうことができます。（「4-7. エミュレーションをおこなう」（P.70）参照。）また、測定結果をCSVやICCプロファイルとして書き出すこともできます。（「4-6. 表示装置のICCプロファイルを作成する」（P.68）参照。）



注意点

- この機能は、次の条件を満たすデバイスで利用できます。
 - Webブラウザを表示できること
 - ColorNavigator 7がインストールされているコンピュータにWebブラウザからアクセスできること
- デバイス測定は分光タイプの測定器のみ使用できます。測定器のタイプは「1-3. ColorNavigator 7の動作条件」（P.6）で確認できます
- デバイス測定はWebブラウザ上に表示されるカラーパッチを測定するため、Webブラウザのカラーマネージメントの影響を受けた測定結果となります。

● 測定結果管理画面の表示

1. メインウィンドウの「ツール」から「デバイス測定」を選択します。



測定結果管理画面が表示されます。

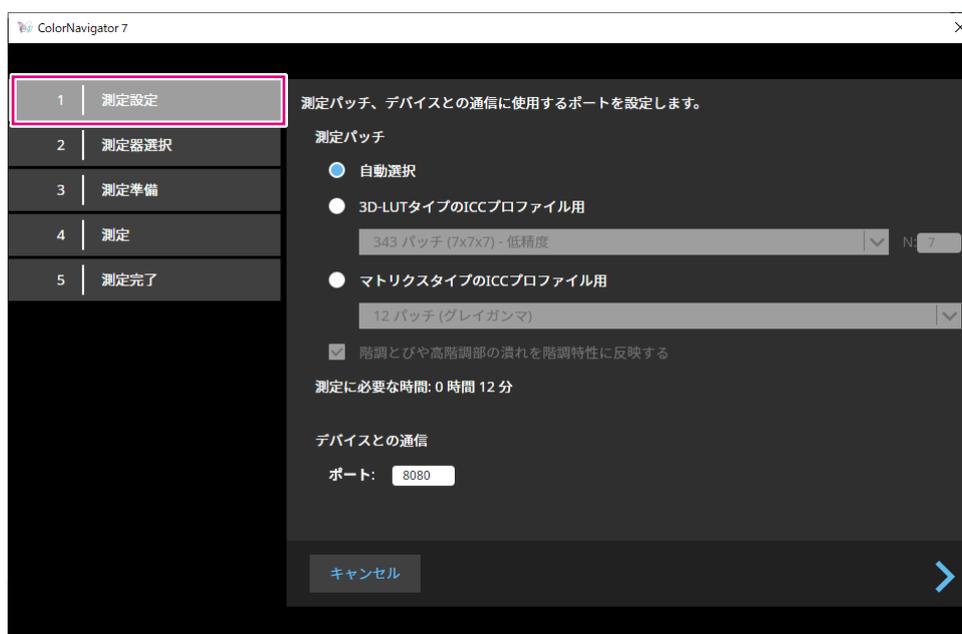


● 新規測定

1. 測定結果管理画面を開き、「測定値の追加」 - 「新規測定」をクリックします。



2. 測定設定ページで、測定パッチと通信ポート番号を設定します。



測定パッチを選択します。

測定パッチ

項目	詳細
自動選択	適切な測定パッチを自動選択します。
3D-LUTタイプのプロファイル用	特性が不明のデバイスを測定するときに選択します。
マトリクスタイプのプロファイル用	加法混色性能が高いと予想できるデバイスを測定するときに選択します。

デバイスの階調とびや階調潰れがある場合、必要に応じて「階調とびや高階調部の潰れを階調特性に反映する」にチェックします。

参考

- 次の測定器では1331パッチ（11 x 11 x 11）まで測定できます。
 - X-Rite i1Studio
 - Calibrite ColorChecker Studio

デバイスとの通信

測定する機器との通信ポート番号を設定します。

初期設定：8080

設定が完了したら、▶をクリックします。

3. 測定器を選択します。

初期化が必要な場合は測定器を初期化します。



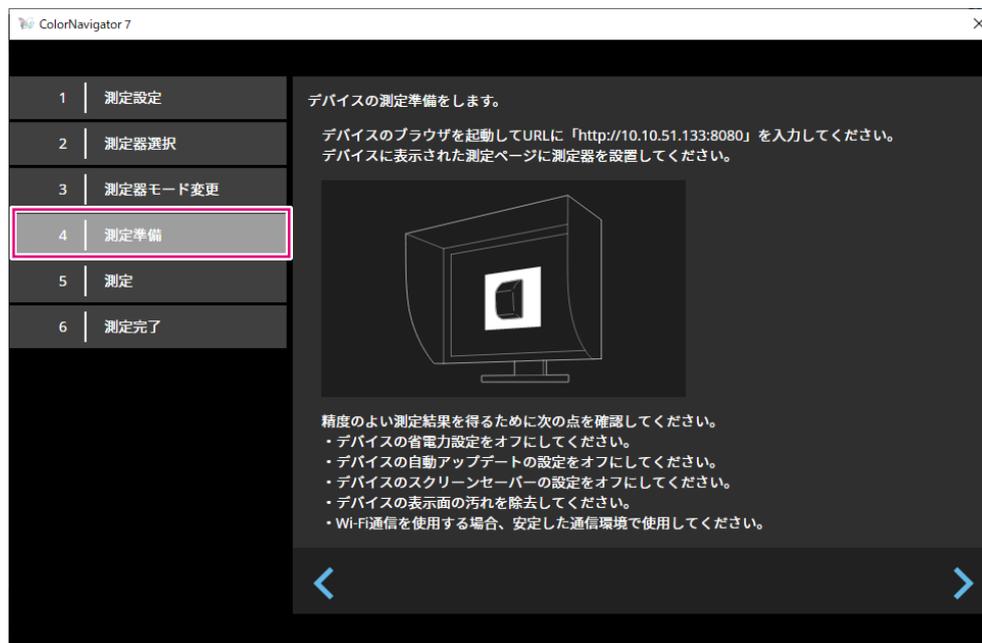
参考

- デバイス測定は分光タイプの測定器のみ使用できます。測定器のタイプは「1-3. ColorNavigator 7の動作条件」(P.6)で確認できます
- 測定器を初期化するときは、測定器のセンサー部に光が入らないように注意してください。初期化中にセンサー部に光が入ると、正しい結果を得ることができません。

選択が完了したら、▶をクリックします。

4. デバイスの測定準備をします。

測定するデバイスのブラウザを起動して、ウィンドウに表示されるURLを入力します。デバイスに測定ページが表示されるので、測定器を設置します。



注意点

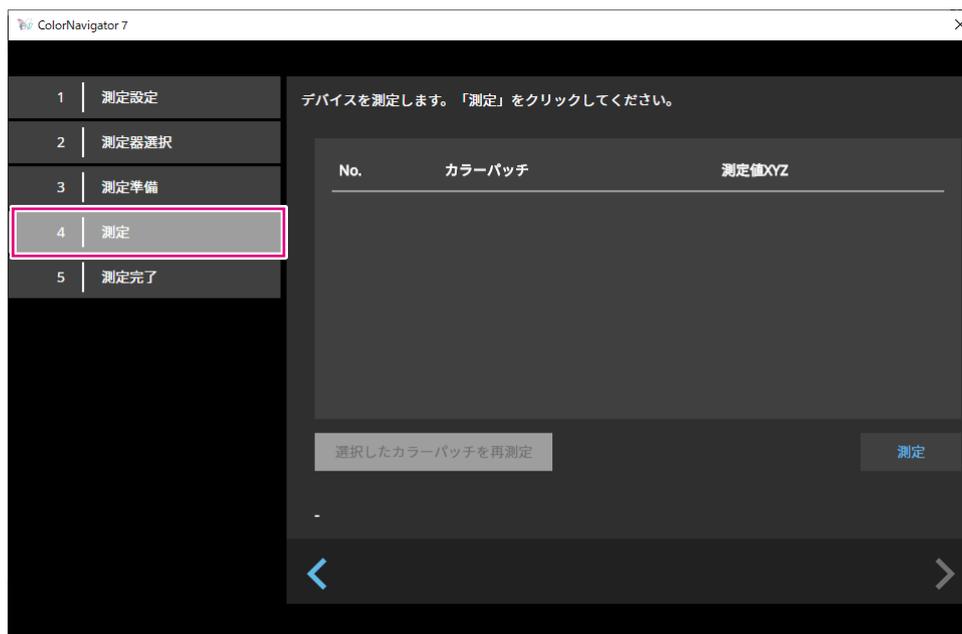
- 通信を正常におこなうため、プロキシの設定やファイアウォールなどのソフトウェアをいったん停止してください。
- 精度のよい測定結果を得るために次の点を確認してください。
 - デバイスの省電力設定をオフにしてください。
 - デバイスの自動アップデートの設定をオフにしてください。
 - デバイスのスクリーンセーバーの設定をオフにしてください。
 - デバイスの表示面の汚れを除去してください。
 - Wi-Fi通信を使用する場合、安定した通信環境で使用してください。
- 測定に影響を与えるような機能が動作しないように設定してください。
- 警告メッセージが表示される場合、メッセージ内容に従って、対応をおこなってください。

参考

- URLは、次のように表示されます。
(例) `http://192.0.2.0:8080`

準備が完了したら、 をクリックします。

5. デバイスを測定します。



「測定」をクリックします。

測定を一時停止する場合は、「停止」をクリックします。

測定を再開する場合は、「測定」をクリックします。

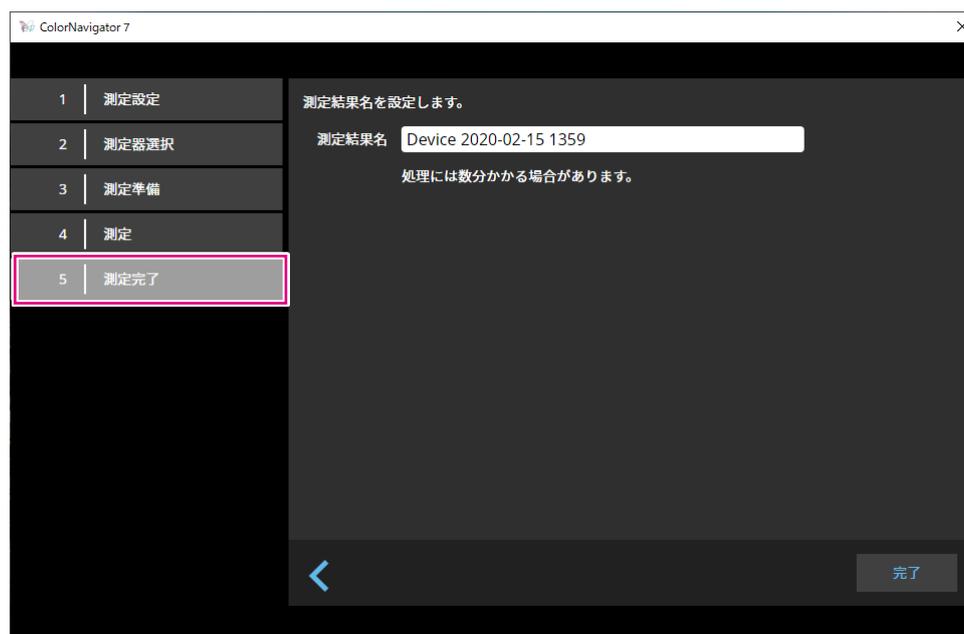
測定済パッチを再測定する場合は、再測定するパッチを選択して「選択したカラーパッチを再測定」をクリックします。

参考

- 画面上に、測定に必要なおおよその時間が表示されます。

測定が完了したら、 をクリックします。

6. 測定結果名を設定します。



参考

- ・ 測定結果名は128文字以内に設定してください。
- ・ 測定結果名に次の文字は使用できません： ¥ / : * ? " < > |
- ・ 測定結果名は、測定結果リスト上でダブルクリックすると変更できます。

設定が完了したら、「完了」をクリックします。測定結果が保存されます。

● 測定結果の編集

測定結果名の変更

名前を変更したい測定結果をリストから選択し、右クリックして表示されるコンテキストメニューから「名前の変更」を選択します。

再測定

再測定したい測定結果をリストから選択し、右クリックして表示されるコンテキストメニューから「再測定」を選択します。

削除

削除したい測定結果をリストから選択し、右クリックして表示されるコンテキストメニューから「削除」を選択します。

● 測定結果の共有

測定結果の書き出し

書き出したい測定結果をリストから選択し、右クリックして「エクスポート」を選択し、「ICCプロファイル」か「CSVファイル」から書き出すフォーマットを選択します。

- ・ 他の環境と共有する場合は「CSVファイル」を選択します。

測定結果の読み込み

「測定値の追加」から「インポート」を選択し、読み込む測定結果を選択します。

4-6. 表示装置のICCプロファイルを作成する

表示装置（デバイス）の測定結果をもとに、ICCプロファイルを作成します。

作成したICCプロファイルを使用して、エミュレーションをおこなうことができます。（「4-7. エミュレーションをおこなう」（P.70）参照。）

1. メインウィンドウを開きます。

2. 「ツール」メニューをクリックし、プルダウンメニューから「デバイス測定」を選択します。

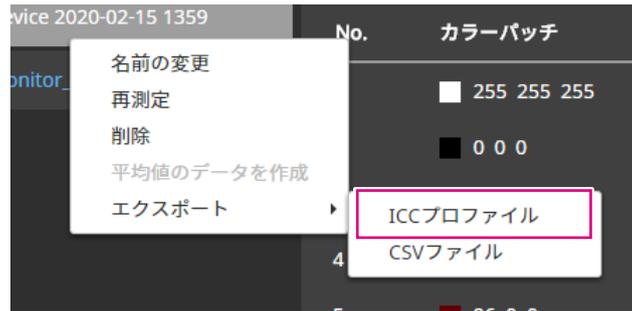


測定結果管理画面が表示されます。



3. ICCプロファイルを作成する測定結果をリストから選択して右クリックします。

4. 表示されるメニューから「エクスポート」 - 「ICCプロファイル」を選択します。



ICCプロファイルにデバイスの表示特性を表すテーブルを記録します。グリッドポイントはそのテーブルの刻み数です。

グリッドポイントを設定して「OK」をクリックします。



ファイル保存ダイアログが表示されるのでファイル名を指定して「保存」をクリックします。

4-7. エミュレーションをおこなう

● ICCプロファイル / 測定結果を利用する場合

プリンタ、タブレット型端末、表示装置など様々なデバイスのICCプロファイル / 測定結果を利用して、エミュレーションをおこないます。

注意点

- ・ カラーモードタイプがStandard (STD) / Sync Signal (SYNC) の場合、この機能は使用できません。
- ・ CS / CXシリーズ、CG2420、CG2730をお使いの場合、この機能は使用できません。

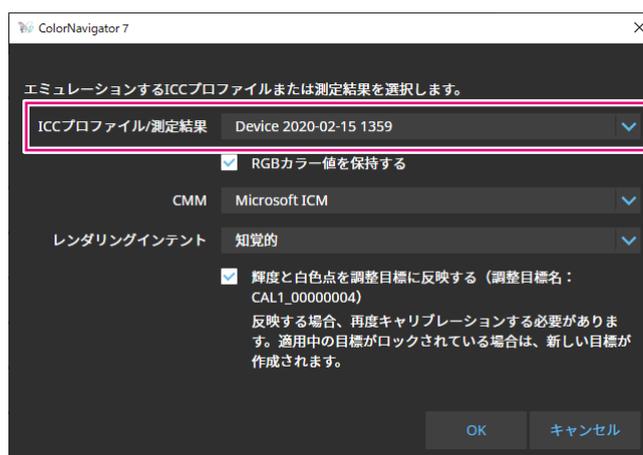
1. メインウィンドウを開きます。

2. エミュレーションをおこなうカラーモードを選択します。

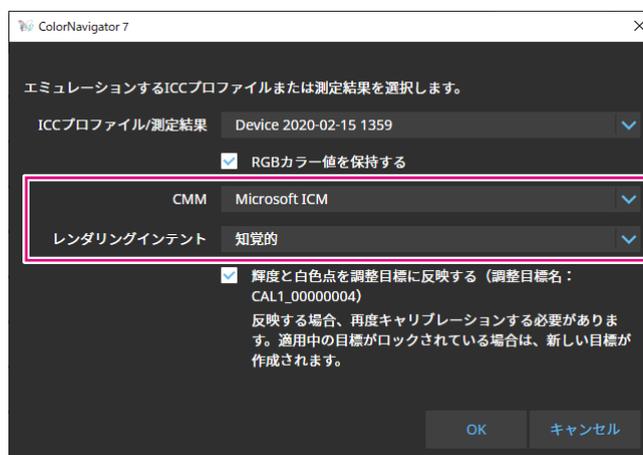
3. 「高度な機能」をクリックし、プルダウンメニューから「エミュレーション」 - 「ICCプロファイル/測定結果」を選択します。

エミュレーション画面が表示されます。

4. エミュレーションするICCプロファイル / 測定結果をプルダウンメニューから選択します。



5. CMM (カラーマネージメントモジュール)、レンダリングインテントをプルダウンメニューから選択します。



参考

- ・「RGBカラー値を保持する」チェックボックス
 - タブレット / 表示装置のICCプロファイルを選択した場合
オンを推奨（初期設定）：エミュレーション対象の色空間に直接色変換します。
 - タブレット / 表示装置のICCプロファイル以外を選択した場合
オフを推奨（初期設定）：モニターの色空間に変換後、エミュレーション対象の色空間に色変換します。
 - ・「輝度と白色点を調整目標に反映する」チェックボックス
反映する場合、再度キャリブレーションする必要があります。目標がロックされている場合は、目標が新規に作成されます。
-

設定が完了したら、「OK」ボタンをクリックします。

6. 「OK」ボタンをクリックします。

エミュレーションが実行されます。

● LogView LUTエミュレーションの場合

カラーグレーディングシステム向けに提供されている映画フィルムの特性ファイル（3D-LUTファイル）からエミュレーションデータを作成することができます。

注意点

- ・ CS / CXシリーズ、CG2420、CG2730をお使いの場合、この機能は使用できません。
 - ・ 読み込むことができる3D-LUTファイルの拡張子は次のとおりです。
.3dl、.cub、*.cube
-

1. メインウィンドウを開きます。

2. エミュレーションをおこなうカラーモードを選択します。

3. 「高度な機能」をクリックし、プルダウンメニューから「エミュレーション」 - 「LogViewLUT」を選択します。

3D-LUTファイル選択画面が表示されます。

4. エミュレーションする3D-LUTファイルを選択します。

5. 「開く」ボタンをクリックします。

フィルムエミュレーションが実行されます。

4-8. モニターオプション設定

モニターのユニフォミティの補正方法を設定します。

1. メインウィンドウを開きます。
2. 「モニター設定」メニューをクリックし、プルダウンメニューから「DUEプライオリティ」を選択します。
3. モニターのDUEプライオリティ設定をプルダウンメニューから選択します。

項目	DUE設定
ユニフォミティ優先	画面全体の輝度および色が均一になるように補正します。
輝度優先	最大輝度およびコントラスト比を優先して補正します。

モニターのDUEプライオリティ設定が設定されます。

注意点

- ・ DUE プライオリティを変更する場合は、センサーのコレレーションを実行し、キャリブレーションをおこなってください。

4-9. モニター設定をエクスポート / インポートする

次のモニターに関する設定を他のモニターと共有するために、設定ファイルを保存（エクスポート）し、読み込み（インポート）します。

- ・ カラーモードの名前
- ・ カラーモードの有効 / 無効
- ・ カラーモードに設定した目標
- ・ モニターの管理方針
- ・ モニターのキーロック設定
- ・ モニターのDUEプライオリティの設定

注意点

- ・ 同じ機種間でのみ設定を共有することができます。機種が異なる場合は、設定を共有することはできません。

● モニター設定をエクスポートする

参考

- ・ エクスポートされるファイルの拡張子は「.cn7monitor」です。

1. メインウィンドウを開きます。
2. 「モニター設定」メニューをクリックし、プルダウンメニューから「モニター設定のエクスポート」を選択します。
3. ファイル名を入力し「保存」ボタンをクリックします。
モニター設定ファイルが保存されます。

● モニター設定をインポートする

参考

・ インポートできるファイルの拡張子は「.(お使いの製品名).cnmonitor」または「.cn7monitor」です。

1. メインウィンドウを開きます。
2. 「モニター設定」メニューをクリックし、プルダウンメニューから「モニター設定のインポート」を選択します。
3. 確認メッセージが表示されたら「OK」ボタンをクリックします。
4. モニター設定ファイルを選択し「開く」ボタンをクリックします。
モニター設定ファイルが読み込まれ、モニター設定が更新されます。

第5章 環境設定

この章では、ColorNavigator 7の環境設定画面について説明します。

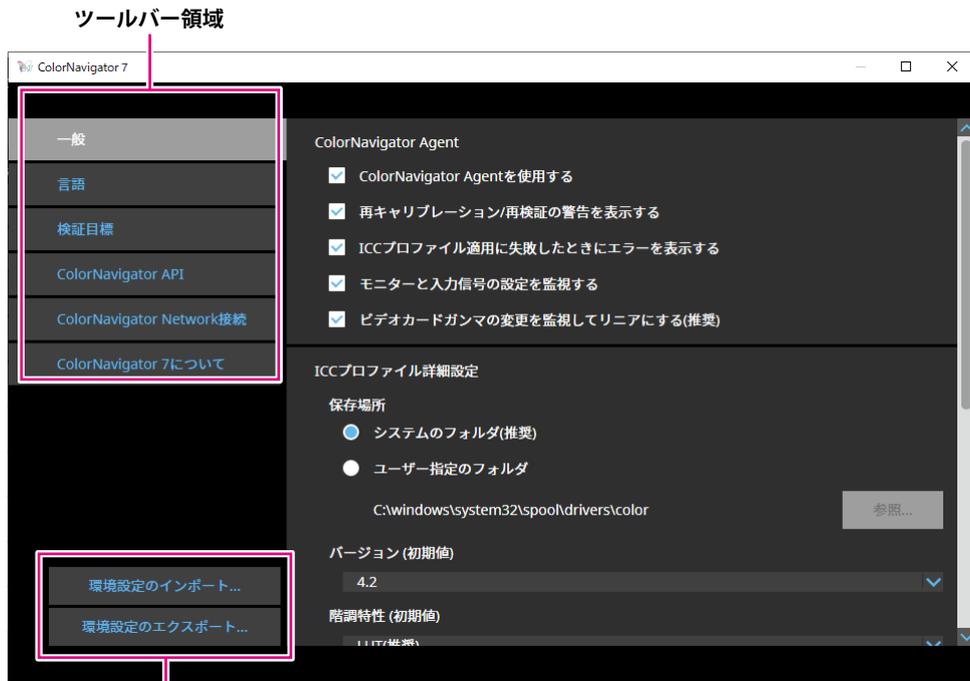
1. メインウィンドウを開きます。
2. 「環境設定」 ボタンをクリックします。



環境設定画面が開きます。

参考

- メニューバー (Mac) またはタスクトレイ (Windows) のColorNavigator 7アイコンをクリック (Mac) または右クリック (Windows) して表示されるコンテキストメニューからも、環境設定画面を開くことができます。



環境設定のインポート / 環境設定のエクスポート

注意

- ・ 検証目標の追加や削除に関する情報は、エクスポートやインポートの対象外です。

参考

- ・ 環境設定画面を閉じると、設定した内容が反映されます。

5-1. ColorNavigator Agentの設定

ColorNavigator Agentは、ColorNavigator 7をシステムに常駐させて利用するための機能です。ColorNavigator Agentのコンテキストメニューから以下の機能を利用できます。

- ・ モニターのカラーモードを切り替える
- ・ ColorNavigatorを起動する（メインウィンドウを開く）
- ・ 環境設定を開く

常駐時はメニューバー（Mac） / タスクトレイ（Windows）にアイコンが表示されます。動作状態により、アイコンの表示が異なります。

アイコン	動作状態
	通常状態 ・ コンテキストメニューの機能が利用できます。
	警告状態 ・ 設定した項目が警告状態です。
	休止状態 ・ ColorNavigatorが動作中です。 ColorNavigatorを終了するまで操作できません。

ColorNavigator Agentの機能を設定します。

1. 環境設定画面を開きます。

2. ツールバーの「一般」を選択します。

項目	概要
ColorNavigator Agentを使用する	ColorNavigator Agentが常駐します。 参考 <ul style="list-style-type: none">初期設定では、システム起動時にColorNavigator Agentが常駐します。常駐させたくない場合は、チェックを外してください。
再キャリブレーション/再検証の警告を表示する	調整してからのモニター使用時間が管理方針で設定した値を超えた場合に、警告を表示します。メインウィンドウを表示して再キャリブレーションする必要があります。
ICCプロファイル適用に失敗したときにエラーを表示する	表示中のカラーモードに適したICCプロファイルがシステムに設定されていない場合に、警告を表示します。カラーモードを選択し直すことで最適なICCプロファイルをシステムに設定することができます。
モニターと入力信号の設定を監視する	モニターの信号設定と実際に入力されている信号が一致していない場合に、警告を表示します
ビデオカードガンマの変更を監視してリニアにする（推奨）	ビデオカードガンマの状態を監視し、変更を検出すると自動的に変更前の状態に戻します。 注意点 <ul style="list-style-type: none">グラフィックスボードによってはビデオカードガンマの状態を監視できない場合があります。

5-2. ICCプロファイル詳細設定

1. 環境設定画面を開きます。
2. ツールバーの「一般」を選択します。
3. 「ICCプロファイル詳細設定」の項目を設定します。



項目		説明	
保存場所	Windows	システムのフォルダ (推奨)	コンピュータに登録されている全アカウントで使用可能なフォルダにICCプロファイルが保存されます。 デフォルト： C:\Windows\system32\spool\drivers\color
		ユーザー指定のフォルダ	ユーザーが指定したフォルダにICCプロファイルが保存されます。 指定する場合、管理者権限が必要です。
	Mac	ユーザードメイン (デフォルト)	ユーザー個別フォルダに保存されます。 デフォルト： Library/ColorSync/Profiles
		ローカルドメイン	コンピュータに登録されている全アカウントで使用可能なフォルダにICCプロファイルが保存されます。 指定する場合、管理者権限が必要です。
	Linux	ColorNavigatorフォルダ (デフォルト)	/var/opt/EIZO/profilesに保存されます。
		ユーザー指定のフォルダ	ユーザーが指定したフォルダにICCプロファイルが保存されます。
バージョン		ICCプロファイルバージョンを選択します。通常は「4.2」を選択します。 お使いのソフトウェアで問題が発生した場合は「2.2」を選択してください。	

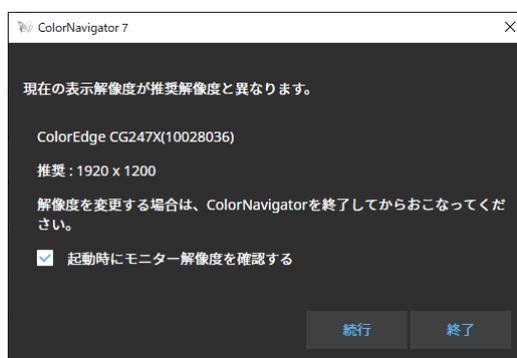
項目	説明
階調特性	<ul style="list-style-type: none"> 階調特性の記録方法をプルダウンメニューから選択します。通常は「LUT（推奨）」を選択します。 「黒レベルを階調特性に反映する」チェックボックス通常はチェックボックスをオフにします。チェックボックスをオンにすると黒レベル値がICCプロファイルの階調特性情報に反映されます。階調特性が正しく表示されない場合は、チェックボックスをオフにしてみてください。ICCプロファイル検証ツールなどでモニターの表示を検証する場合はオンに設定してください。
手動調整ICCプロファイル作成	<p>目標編集画面で「ICCプロファイルポリシー」を「調整ごとにICCプロファイルを更新する」に設定している場合に適用されます。通常は「手動調整結果からICCプロファイルを作成する（推奨）」を選択します。</p>

5-3. 起動時にモニターの解像度を確認する

ColorNavigator 7起動時にモニターの解像度を確認して、モニターの推奨解像度と異なる場合に警告メッセージを表示することができます。

1. 環境設定画面を開きます。
2. ツールバーの「一般」を選択します。
3. 「起動時にモニター解像度を確認する」をチェックします。

警告メッセージ



「続行」をクリックすると解像度を変更せずにColorNavigator 7を使用できます。解像度を変更する場合は「終了」ボタンをクリックし、モニターの解像度を変更してからColorNavigator 7を再起動してください。

注意点

- ColorNavigator 7を終了せずに解像度を変更した場合、ColorNavigator 7は正しく動作しない場合があります。

参考

- 解像度がモニターの推奨解像度と異なる場合でも、ColorNavigator 7の動作には問題ありませんが、文字や線がぼやけて見える場合があります。
- コンピュータでDPIの設定を変更していると、このメッセージが表示される場合があります。

5-4. ICCプロファイルを適用しない

ICCプロファイルをシステムに適用させたくない場合にチェックします。

1. 環境設定画面を開きます。
2. ツールバーの「一般」を選択します。
3. 「ICCプロファイルを適用しない」をチェックします。

5-5. 品質向上に協力する

ColorNavigator 7の製品改善にご協力ください。

プログラムに参加すると、製品の使用状況がデータとして自動的に収集されます。なお、データは匿名であり、個人を特定できる情報は収集されません。

1. 環境設定画面を開きます。
2. ツールバーの「一般」を選択します。
3. 「品質向上に協力する」をチェックします。

5-6. 言語の設定

● 表示言語を設定する

1. 環境設定画面を開きます。
2. ツールバーの「言語」を選択します。

表示言語選択画面が表示されます。

3. リストから言語を選択し、選択した言語をリストの一番上になるように  または  で移動します。

言語を設定後、環境設定画面を閉じると表示言語が更新されます。

参考

- ・ マウス操作（ドラッグ&ドロップ）で言語の表示順序を設定することができます。

● 表示言語を追加する

言語パック（zip形式）を読み込むことで、表示言語を追加することができます。

1. 環境設定画面を開きます。

2. ツールバーの「言語」を選択します。

表示言語選択画面が表示されます。

3. 「言語を追加」ボタンをクリックします。

言語パックファイルを選択し「開く」ボタンをクリックします。

表示言語が追加されます。

5-7. 検証目標の管理

独自に作成した検証目標をColorNavigator 7に読み込み、モニターの検証に使用することができます。検証目標のファイルフォーマットについては、次の項目を参照してください。

● 検証目標を追加する

検証目標ファイルのフォーマットについては、「[検証目標ファイルのフォーマット](#)」（P.82）を参照してください。

1. 環境設定画面を開きます。

2. ツールバーの「検証目標」をクリックします。

検証目標管理画面が表示されます。



初期設定では次のカラーパッチが記録されています。

検証目標	検証タイプ
RGB簡易	RGB
ISO 12646 Profile Quality	RGB
FOGRA28 ISOwebcoated (legacy)	CMYK
FOGRA29 ISOuncoated (legacy)	CMYK
FOGRA30 ISOuncoatedyellowish	CMYK
FOGRA39 ISOcoated_v2_300_eci	CMYK
FOGRA39 ISOcoated_v2_eci	CMYK
FOGRA40 SC_paper_eci	CMYK
FOGRA41 PSO_MFC_Paper_eci	CMYK
FOGRA42 PSO_SNP_Paper_eci	CMYK
FOGRA43 PSO_Coated_300_NPscreen_ISO12647_eci	CMYK
FOGRA43 PSO_Coated_NPscreen_ISO12647_eci	CMYK
FOGRA44 PSO_Uncoated_NPscreen_ISO12647_eci	CMYK
FOGRA45 PSO_LWC_Improved_eci	CMYK
FOGRA46 PSO_LWC_Standard_eci	CMYK
FOGRA47 PSO_Uncoated_ISO12647_eci	CMYK
FOGRA51 PSOcoated_v3	CMYK
FOGRA52 PSOuncoated_v3_FOGRA52	CMYK
ECI PSR_LWC_PLUS_V2_PT	CMYK
ECI PSR_LWC_STD_V2_PT	CMYK
ECI PSR_ST_PLUS_V2_PT	CMYK
ECI PSR_ST_STD_V2_PT	CMYK
ECI PSRgravureMF_PT	CMYK
IDEAlliance GRACoL2006_Coated1v2	CMYK
IDEAlliance SWOP2006_Coated3v2	CMYK
IDEAlliance SWOP2006_Coated5v2	CMYK
IFRA26 ISOnewspaper26v4	CMYK

3. 「検証目標の追加」 ボタンをクリックします。

4. 検証目標ファイルを選択し「開く」ボタンをクリックします。

検証目標リストに読み込んだ検証目標のファイル名が表示されます。ファイル名をクリックすると読み込まれた検証目標の内容が表示されます。

● 検証目標を削除する

1. 環境設定画面を開きます。

2. ツールバーの「検証目標」をクリックします。

検証目標管理画面が表示されます。

3. 検証目標を右クリックし、コンテキストメニューから「削除」を選択します。



検証目標が削除されます。

■ 注意点

- ColorNavigator 7によって用意されている検証目標を削除することはできません。
- 削除した検証目標を再度表示する場合、検証目標の読み込みをおこなってください。

● 検証目標ファイルのフォーマット

ColorNavigator 7で読み込むことのできるファイルのフォーマットは次のとおりです。

● RGBタイプの検証目標

- カンマ区切り形式のテキストファイル。拡張子は「csv」
- 各行には左から赤、緑、青の順に値を記録
- 赤、緑、青の値は、以下の範囲で設定
 - 0~1の範囲の小数か、0~255 あるいは 0~1023の範囲の整数
 - 0.0~1.0 / 0~255 / 0~1023のいずれかの範囲
- 検証目標ファイルのサンプル

```
0,0,0
0,0,255
0,255,0
0,255,255
255,0,0
255,0,255
255,255,0
255,255,255
```

■ 注意点

- 0~1 / 0~255 / 0~1023のいずれかの範囲にすべての赤、緑、青の値をそろえる必要があります。たとえば、「0~255」のつもりで、256以上の数値を入力すると、すべてのカラーパッチが「0~1023」での指定と解釈され、暗いカラーパッチだけになってしまいます。

● **CMYKタイプの検証目標**

- スペース区切りまたはタブ区切り形式のテキストファイル。拡張子は「txt」
- 検証目標ファイルのサンプル

```

BEGIN_DATA_FORMAT
CMYK_C CMYK_M CMYK_Y CMYK_K LAB_L LAB_A LAB_B 1
END_DATA_FORMAT
BEGIN_DATA
0 0 0 0 100.00 0.00 0.00
0 0 0 100 16.91 0.04 0.53
0 0 100 0 93.70 -5.22 98.22
0 0 100 100 17.18 -3.88 10.17
0 100 0 0 50.84 77.40 -1.91
0 100 0 100 12.43 13.45 2.80
0 100 100 0 50.03 71.21 51.21
0 100 100 100 13.29 6.35 6.29
100 0 0 0 58.18 -38.73 -50.39
100 0 0 100 11.94 -7.07 -9.99
100 0 100 0 53.04 -69.67 28.11
100 0 100 100 13.22 -12.75 3.02
100 100 0 0 25.87 20.55 -46.91
100 100 0 100 9.49 6.30 -4.03
100 100 100 0 24.76 0.10 0.61
100 100 100 100 10.80 -0.61 1.91
END_DATA 2

```

No.	説明
1	<ul style="list-style-type: none"> • BEGIN_DATA_FORMATとEND_DATA_FORMATの間に、CMYK成分およびL*a*b*成分の順序を記述する。^{※1} • 検証目標ファイルを作成する場合は、サンプルの内容をそのまま記述する。
2	<ul style="list-style-type: none"> • CMYK成分およびL*a*b*成分は次の範囲で記述する。 <ul style="list-style-type: none"> - CMYK：0～100の整数値 - L*：0～100の数値（小数も可） - a*b*：-128～128の数値（小数も可） • CMYK（0 0 0 0）の値を含める。

※1 各要素の意味は次の通りです。

項目	説明
CMYK_C	シアン
CMYK_M	マゼンタ
CMYK_Y	黄色
CMYK_K	黒
LAB_L	L*
LAB_A	a*
LAB_B	b*

5-8. ColorNavigator APIを有効にする

ColorNavigator APIの有効 / 無効の設定とポート番号の設定をおこないます。

APIの詳細は当社のWebサイトを参照してください。

www.eizo.co.jp/products/ce/developer/reference/

1. 環境設定画面を開きます。
2. ツールバーの「ColorNavigator API」を選択します。
3. 「ColorNavigator APIを有効にする」をチェックし、ポート番号（初期設定：50005）を設定します。



注意点

- ColorNavigator APIを使用するには、ColorNavigator Agentを有効にする必要があります。ツールバーの「一般」を選択し、「ColorNavigator Agentを使用する」チェックボックスをオンにしてください。

5-9. ColorNavigator Network接続

ColorNavigator Networkで提供される接続ファイルを読み込み、ColorNavigator Networkからモニターを管理できるように設定します。

注意点

- ColorNavigator Networkの設定は、システム管理者の指示に従っておこなってください。

参考

- ColorNavigator Networkで管理可能なモニターについては、ColorNavigator Networkの取扱説明書を参照してください。
- ColorNavigator Networkを使用するためには、ColorNavigator Agentを有効にする必要があります。詳細は、「[5-1. ColorNavigator Agentの設定](#)」(P.75)を参照してください。

1. 環境設定画面を開きます。

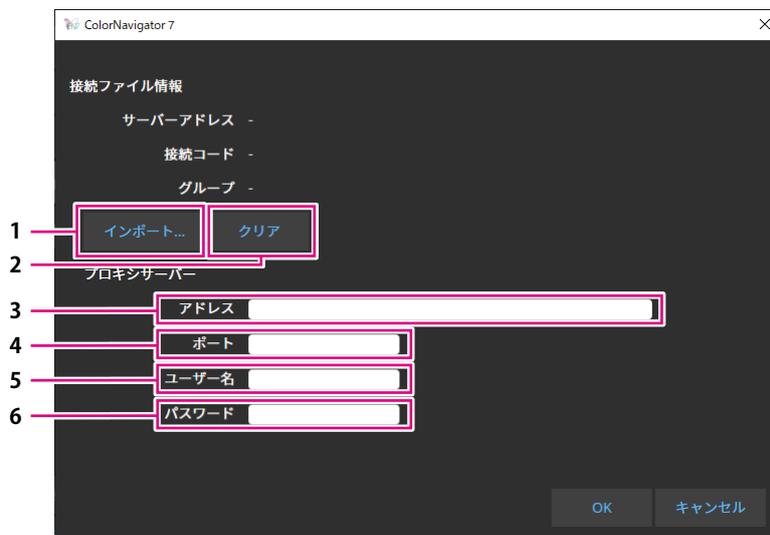
2. ツールバーの「ColorNavigator Network接続」を選択します。

ColorNavigator Network接続画面が表示されます。

3. 「ColorNavigator Networkへの接続を有効にする」チェックボックスをオンにします。

4. 「編集」ボタンをクリックします。

5. ネットワーク接続情報を設定します。



No.	項目	説明
1	インポート	接続ファイルをインポートします。
2	クリア	接続ファイル設定をクリアします。
3	アドレス	システムのプロキシサーバーのアドレスを入力します。
4	ポート	システムのプロキシサーバーのポート番号を入力します。
5	ユーザー名	ユーザー認証が必要な場合にシステムのプロキシサーバーのユーザー名を入力します。
6	パスワード	ユーザー認証が必要な場合にシステムのプロキシサーバーのパスワードを入力します。

6. 設定が完了したら「OK」ボタンをクリックします。

ネットワーク接続情報が保存されます。

第6章 その他の機能

6-1. テストパターンを表示する

調整状態を目視で確認するためのテストパターンを表示します。グレースケールに色付きがないか、階調特性（ガンマ）が正しく表示されているかを確認することができます。

注意点

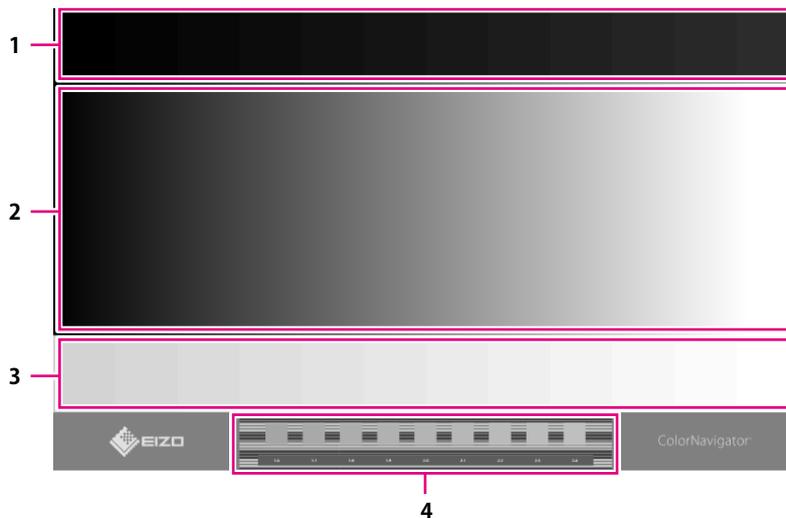
- ・ 階調特性の確認をする場合、モニターを推奨解像度で使用しているか確認してください。モニターの推奨解像度については、モニターの取扱説明書を参照してください。
- ・ モニターを推奨解像度で使わないと、テストパターンに次のような問題が発生することがあります。
 - 階調とびが見えにくくなる
 - 階調潰れが見えにくくなる
- ・ モニターおよびOSの設定によって、テストパターンが画面の左半分または右半分のみ表示される場合があります。モニターの調整や検証などに影響はありません。

1. メインウィンドウを開きます。

2. 「ツール」メニューをクリックし、プルダウンメニューから「テストパターン」を選択します。

テストパターンが画面全体に表示されます。

表示を終了するときは、テストパターン上でマウスをクリックします。



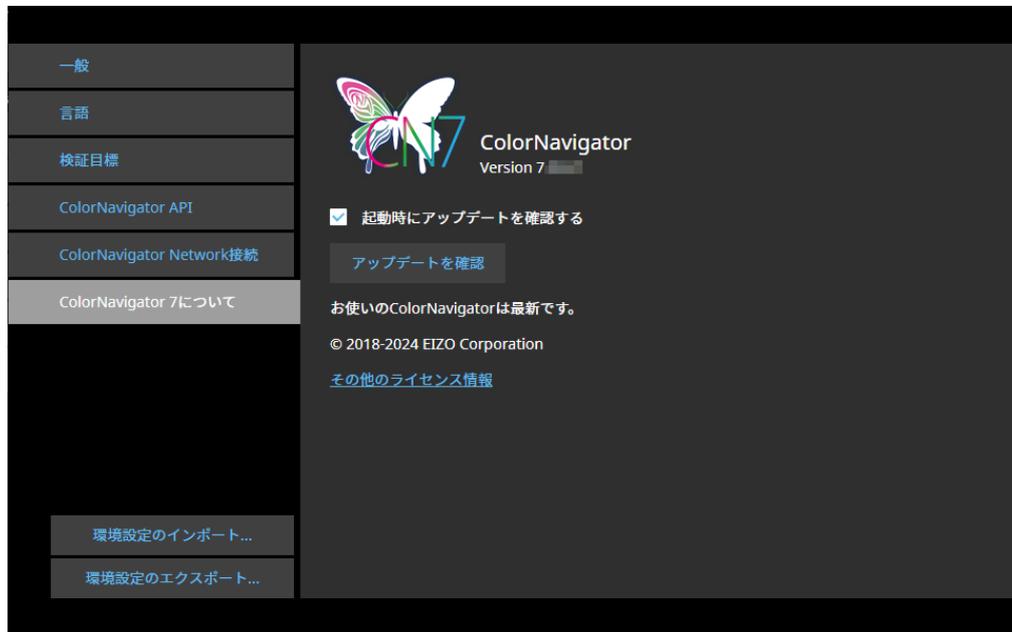
No.	説明
1	・ 低階調エリア 低階調のパッチを表示します。 低階調の詳細確認に利用します。
2	・ グレースケールエリア グレースケールの階調（256階調で0～255）が等間隔で表示されます。 ガンマの確認やグレイバランス確認に利用します。
3	・ 高階調エリア 高階調のパッチを表示します。 高階調の詳細確認に利用します。
4	・ ガンマ確認エリア ストライプ部分との違いが最も小さいグレイパッチ部分を探します。 そのグレイパッチ部分の下に表示されている数値が現在の表示に最も近いガンマ値となります。

6-2. バージョン情報を表示する

1. 環境設定画面を開きます。

2. ツールバーの「ColorNavigator 7について」を選択します。

バージョン情報が表示されます。



参考

- 使用中のバージョンよりも新しいバージョンのColorNavigator 7が使用可能な場合、アップデートすることができます。アップデートをおこなう場合は、お使いのコンピュータがインターネットに接続されている必要があります。詳細は、「6-3. ソフトウェアのアップデートを確認する」(P.88)を参照してください。

6-3. ソフトウェアのアップデートを確認する

インターネット経由でColorNavigator 7の更新情報を確認し、使用中のバージョンよりも新しいバージョンのColorNavigator 7が使用可能な場合は、新しいバージョンにアップデートすることができます。

注意点

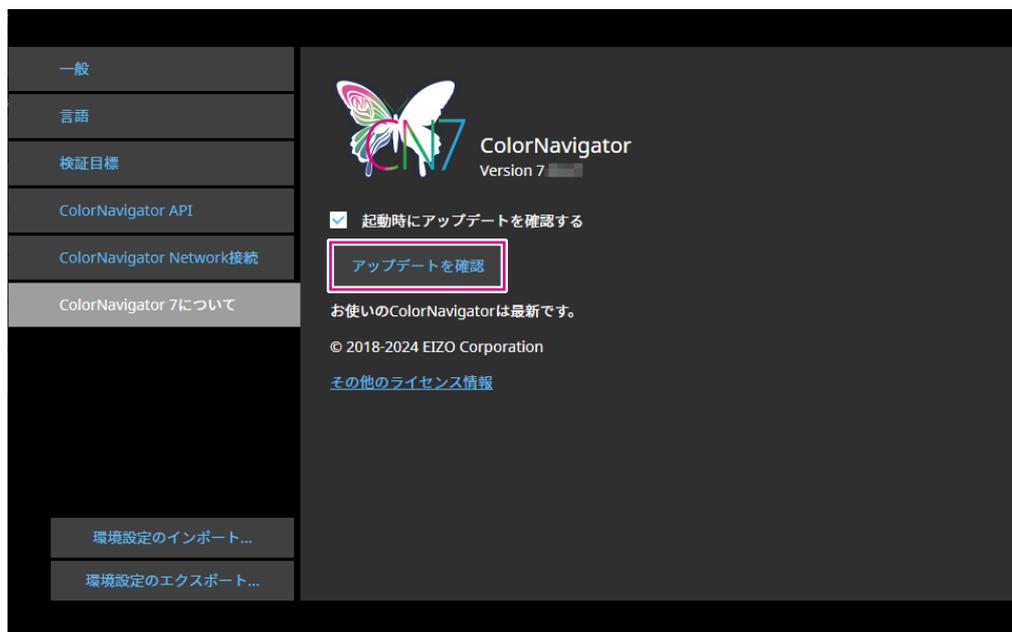
・アップデートをおこなう場合は、お使いのコンピュータがインターネットに接続されている必要があります。

1. 環境設定画面を開きます。

2. ツールバーの「ColorNavigator 7について」を選択します。

3. 「アップデートを確認」ボタンをクリックします。

アップデート可能な場合は、最新のバージョンと「今すぐアップデート」ボタンが表示されます。



「起動時にアップデートを確認する」チェックボックスをオンにすると、ColorNavigator 7起動時にアップデートの有無を確認します。

アップデートがある場合は、ColorNavigator Agentにアップデートの通知メッセージが表示されます。

6-4. ライセンス情報を確認する

ColorNavigator 7が使用しているライブラリのライセンス情報を表示します。

1. 環境設定画面を開きます。

2. ツールバーの「ColorNavigator 7について」を選択します。

3. 「その他のライセンス情報」をクリックします。

ライセンス情報が表示されます。

6-5. システム情報を表示する

お使いのコンピュータやモニターなどの環境に関する詳細な情報を表示します。

1. メインウィンドウを開きます。

2. 「ツール」メニューをクリックし、プルダウンメニューから「システム情報」を選択します。

システム情報が表示されます。「ファイルに出力」をクリックすると、システム情報をzip形式で保存することができます。

第7章 こんなときは

症状	原因と対策
1. 取扱説明書が見つからない	<ul style="list-style-type: none"> ・  をクリックすると取扱説明書のPDFが表示されます。
2. 定期的に調整したい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「モニター設定」メニューの「管理方針」を選択して管理方針を設定してください。 詳細は、「3-9. 定期的にモニターのキャリブレーションをおこなう」(P.48)を参照してください。
3. 目標を編集 / 削除できない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標がロックされています。 をクリックして、ロックを解除してください。
4. 「プリセット目標に合わせる」や「プリセット目標」が表示されない	<ul style="list-style-type: none"> ・ CS230またはCS2410では使用できない機能のため、表示されません。
5. カラーモード名が変更できない	<ul style="list-style-type: none"> ・ カラーモード名に使用できる文字と文字数には制限があります。 ・ 使用できる文字は、英数字、ハイフン「-」、丸括弧「()」、アンダーバー「_」、スペース(すべて半角)です。 ・ モードに割り当てられている目標の編集画面で「カラーモード名を設定する」にチェックが入っている場合、「名前の変更」は表示されません。
6. 手動調整できない項目がある	<ul style="list-style-type: none"> ・ お使いのモニターまたは表示しているカラーモードタイプ、目標によって手動調整できる内容は異なります。 ・ カラーモードタイプがStandard (STD) の場合、手動調整できるのは輝度と白色点のみです。6色調整などをおこないたい場合は、カラーモードタイプをAdvanced (ADV) に切り替えて(「カラーモードタイプを変更する」(P.53)参照)、キャリブレーション後に手動調整してください。 ・ カラーモードタイプがStandard (STD) のときにガンマ (EOTF) または色域を調整したい場合は、メインウィンドウで設定を編集してください。
7. 「お使いのMac用に最適化されていません。」というメッセージが表示される	<ul style="list-style-type: none"> ・ ソフトウェアの動作に問題はありません。「OK」をクリックしてそのままお使いください。
8. 「"System Events"を制御するアクセスを要求しています。」というメッセージが表示される (Macのみ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ システム起動時にソフトウェアを起動するために必要な処理です。ColorNavigator 7の常駐機能 (ColorNavigator Agent) を有効にするために必要ですので、「OK」をクリックしてください。「OK」をクリックすることでシステムに重大な影響を与えることはありません。

第8章 エラーメッセージ

エラーメッセージ	原因と対策
1. アップデート確認エラー	<ul style="list-style-type: none"> お使いのコンピュータがインターネットに接続されているか確認してください。 OSのプロキシ設定が正しいか、確認してみてください。詳細はシステム管理者にお問い合わせください。
2. 色見台が検出できません	<ul style="list-style-type: none"> 色見台とコンピュータがUSB接続されているか確認してください。 動作対象の色見台を接続しているか確認してください。 「4-4. 色見台を調整する」(P.60) 参照。
3. エミュレーションLUTをモニターに設定できませんでした	<ul style="list-style-type: none"> キャリブレーションされていない目標に対してエミュレーションLUTを設定することはできません。 <ul style="list-style-type: none"> キャリブレーションが完了している目標に対してエミュレーションLUTを設定してください。 キャリブレーションされていない目標に対しては、キャリブレーションが完了してからエミュレーションLUTを設定してください。 他のカラーモード (Advanced) のエミュレーションLUTを解除してから設定をやり直してしてください。 「4-7. エミュレーションをおこなう」(P.70) 参照。
4. エミュレーションデータの作成に失敗しました	<ul style="list-style-type: none"> 3D-LUTファイルの形式に誤りがあります。別の3D-LUTファイルを選択してみてください。
5. キャリブレーションに失敗しました	<ul style="list-style-type: none"> キャリブレーションまたは手動調整に失敗しました。数分後にキャリブレーションをやり直すか、目標を変更してからキャリブレーションをやり直してみてください。
6. 言語パック読み込みエラー	<ul style="list-style-type: none"> 言語パックの読み込みに失敗しました。言語パックの内容を確認してください。 「5-6. 言語の設定」(P.79) 参照。
7. 検証に失敗しました	<ul style="list-style-type: none"> 検証をやり直してください。
8. コレレーションエラー	<ul style="list-style-type: none"> コレレーションに失敗しています。次の点を確認し、もう一度「実行」をクリックしてコレレーションをおこなってください。 <ul style="list-style-type: none"> 測定器が正しく測定ウィンドウに取り付けられていますか。 測定器をもう一度初期化してからコレレーションを実行してみてください。
9. スクリーンエラー	<ul style="list-style-type: none"> ColorNavigatorを再起動して操作をやり直してください。重大なエラーが発生しています。ColorNavigatorを再起動して操作をやり直してください。 ColorNavigatorを実行するには、OSのミラーリング機能を「オフ」にしてください。カラーマネージメントを正しくおこなうため、ミラーリング機能（複数のモニターに同じ画面を表示する機能）は使えません。設定の変更については、当社のWebサイトを参照してください。 www.eizo.co.jp 「ミラーリング」で検索 モニターを2台以上接続している場合は、それぞれのモニターに独立した画面を表示してください。同じ画面をそれぞれのモニターに表示したり、画面を複数のモニターにわたって表示すると、ColorNavigatorでの調整ができません。設定の変更については、グラフィックスボードの取扱説明書を参照してください。 Windowsのディスプレイ調整が有効になっています。ColorNavigatorによる調整を正常におこなうためには、Windowsのディスプレイ調整機能をオフにする必要があります。（「Windowsのディスプレイ調整機能をオフにする」(P.95) 参照。）

エラーメッセージ	原因と対策
10. 接続エラー	<ul style="list-style-type: none"> ColorNavigator Networkへの接続に失敗しています。ネットワークの状態や接続ファイル、プロキシサーバーの設定を確認してください。 ネットワークの詳細に関しては、システム管理者にお問い合わせください。 「5-9. ColorNavigator Network接続」 (P.85) 参照。
11. 設定できない情報があるため、別の環境でColorNavigatorの設定が必要です	<ul style="list-style-type: none"> 次のいずれかに該当する場合、ICCプロファイルはキャリブレーションを実行するたびに更新される設定になります。 <ul style="list-style-type: none"> 環境設定ダイアログの「一般」-「ICCプロファイル詳細設定」の「手動調整ICCプロファイル作成」が「手動調整前のICCプロファイルを使用する」が選択されている場合 目標編集画面の「ICCプロファイルポリシー」で「指定したICCプロファイルを使用する」が選択されている場合 「5-2. ICCプロファイル詳細設定」 (P.77) 参照。
12. 測定エラー	<ul style="list-style-type: none"> 測定に失敗しました。操作を終了し、測定器のUSB接続などを確認して操作をやり直してみてください。 測定器が測定ウィンドウに取り付けられていないために失敗しています。測定器が測定ウィンドウに取り付けられているか確認して「実行」をクリックしてください。
13. 測定器を検出できません/測定器の検出に失敗しました	<ul style="list-style-type: none"> 測定器が正しくUSB接続されていない可能性があります。測定器のUSB接続を確認してみてください。 測定器によっては自動的に検出されないため、「自動検出した測定器のみ表示する」のチェックをオフにしてから選択してください。 測定器のドライバが正しくインストールされていない可能性があります。ColorNavigator 7のインストールをやり直してみてください。インストールをやり直すことでソフトウェアのデータが破棄されることはありません。 測定器によっては対応できない機能があります。お使いの測定器が使用している機能に対応しているか確認してください。詳細は当社のWebサイトを参照してください。 www.eizo.co.jp 「ColorNavigator 7 対応センサー」で検索 測定器固有の確認項目 <ul style="list-style-type: none"> i1Display 3、i1Display Pro、i1Display Pro Plus、ColorChecker Display Pro、ColorChecker Display Plus、i1Studio、ColorChecker Studio (Windows) 「サービス」を表示して、「X-Rite Device Services Manager」を停止してください。「サービス」は、Windowsのファイル検索機能で「サービス」または「services.msc」と入力すると表示されます。 i1Display 3、i1Display Pro、i1Display Pro Plus、i1Studio i1Profiler / i1Profiler Trayまたはi1 Studio / i1 Studio Trayを終了してください。 ColorChecker Display Pro、ColorChecker Display Plus、ColorChecker Studio ccProfiler / ccProfiler TrayまたはccStudio / ccStudio Trayを終了してください。 Calibrite Display Pro HL、Display Plus HL Calibrite PROFILERを終了してください。 CS-2000、CS-2000A、CS-200、CA-310、CA-410 測定器のドライバが正しくインストールされていない可能性があります。ColorNavigator 7のインストールではこれらの測定器のドライバをインストールしないので、ドライバをインストールしてください。ドライバは製造元にお問い合わせください。
14. ダウンロードエラー	<ul style="list-style-type: none"> お使いのコンピュータがインターネットに接続されているか確認してください。 プロキシ設定が正しいか、確認してみてください。詳細はシステム管理者にお問い合わせください。

エラーメッセージ	原因と対策
15. 調整エラー	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリブレーションに失敗しています。次の点を確認し、もう一度「実行」をクリックしてキャリブレーションをおこなってください。 <ul style="list-style-type: none"> - 測定器が正しく測定ウィンドウに取り付けられていますか。 - 測定器をもう一度初期化してからキャリブレーションを実行してみてください。
16. 調整に失敗しました	<ul style="list-style-type: none"> ・ 色見台の調整に失敗しました。 ・ 色見台とコンピュータがUSB接続されているか確認してください。 ・ 目標を変更してから調整をやり直してみてください。 ・ 「4-4. 色見台を調整する」 (P.60) 参照。
17. 通信エラー (モニター)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ColorNavigator 7の操作中にモニターとのUSB接続が切断されました。ColorNavigator 7を終了し、モニターとコンピュータがUSBケーブルでしっかり接続されていることを確認してからColorNavigator 7を再起動して操作をやり直してください。
18. 通信エラー (測定器)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 測定器のUSB接続が切断された可能性があります。測定器がしっかりUSB接続されているか確認してください。
19. 表示しているウィンドウの数が上限に達しました	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表示不要なウィンドウを閉じてください。
20. ファイルエラー	<ul style="list-style-type: none"> ・ ファイル操作でエラーが発生しました。 ・ 読み込もうとしているCMYKタイプの検証目標ファイルが不正です。検証目標ファイルの内容を確認してください。(「5-7. 検証目標の管理」 (P.80) 参照。) ・ エミュレーションLUTファイルが不正です。3D-LUTファイルの内容が正しいか確認してください。 ・ ColorNavigator 7があらかじめ登録してある検証目標名称と同じ名前のファイルを読み込もうとしています。ファイル名を変更してください。
21. ファイルエラー (ColorNavigator Network接続)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ColorNavigator Networkへの接続設定を記録した「接続ファイル」の読み込みに失敗しました。接続ファイルが不正な可能性があります。接続ファイルを管理者からもう一度入手してもう一度インポートしてみてください。
22. ファイルの形式が不正です	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正しいファイルを指定しているか確認してください。
23. ファイルの保存に失敗しました。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在のユーザー権限では指定したフォルダへのファイルを保存する権限がない可能性があります。保存するフォルダを変更するか、ユーザー権限を確認してください。
24. ファイルの読み込みに失敗しました	<ul style="list-style-type: none"> ・ ファイル名が長すぎます。128文字以下のファイル名にしてから読み込んでください。 ・ 指定したファイルが存在するか、指定したファイルのアクセス権を確認してください。
25. 不明なエラー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不明なエラーが発生しました。ColorNavigator 7を終了して操作をやり直してください。 ・ 症状が継続して発生する場合はEIZOメンテナンスセンターにご相談ください。
26. ICCプロファイル設定エラー	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICCプロファイルのシステムへの設定に失敗しました。操作をやり直してみてください。 ・ プロファイルの保存場所をほかの場所に設定してから操作をやり直してみてください。 ・ 「5-2. ICCプロファイル詳細設定」 (P.77) 参照。
27. ICCプロファイルを保存できませんでした	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICCプロファイルの保存に失敗しました。操作をやり直してみてください。 ・ プロファイルの保存場所をほかの場所に設定してから操作をやり直してみてください。 ・ 「5-2. ICCプロファイル詳細設定」 (P.77) 参照。 ・ PDFビューアなどICCプロファイルをロックするようなアプリケーションを起動している場合はアプリケーションを終了してください。
28. 目標値エラー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標値の設定に失敗しました。別の目標値を設定してみてください。 ・ ICCプロファイルから目標値の作成に失敗しました。別のICCプロファイルを選択してください。

エラーメッセージ	原因と対策
29. 目標のインポートに失敗しました	<ul style="list-style-type: none"> • インポートするファイルが正しいか確認してください。 • インポートするファイルに不正な文字列が追加されています。もう一度、目標をエクスポートして、インポートしてください。 • インポート先のモニターでは、エミュレーションが設定された目標のインポートができません。エミュレーションが設定されていない目標をインポートしてください。 • HDRに対応した目標は、HDR非対応のモニターにインポートすることはできません。 • インポート先のモニターは、「リミテッド(109% 白)に最適化」を有効にしている目標のインポートに対応していません。 • インポート先のモニターは、白色点に「D65 (CRT)」が設定された目標のインポートに対応していません。 • インポートしようとしたモニターでは、PQ オプションに「Auto」が設定された目標のインポートに対応していません。 • ColorNavigator 7.0.9以前でエクスポートしたカラーモードタイプが Standard (STD) の目標はインポートできません。
30. 目標を適用できません	<ul style="list-style-type: none"> • 現在適用しようとしている目標に設定されたカラーモード名が他のカラーモードで使われています。カラーモード名が重複しないようにどちらかのカラーモード名を変更してください。
31. モニターを制御できません	<ul style="list-style-type: none"> • Quick Color Matchなどの他のソフトウェアがモニターのUSB接続を使用しています。USB接続を使用しているソフトウェアを終了してください。
32. Cubeファイルの読み込みに失敗しました	<ul style="list-style-type: none"> • LUTサイズについて、次の点を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> - LUT_1D_SIZEまたはLUT_3D_SIZEを指定してください。 - 1D-LUTの場合、LUT_1D_SIZEには2~65536の値を1つ指定してください。 - 3D-LUTの場合、LUT_3D_SIZEに2~65の値を1つ指定してください。 - LUTサイズとテーブルデータの数は一致させてください。 • LUT_1D_SIZEまたはLUT_3D_SIZEが重複して指定されています。1つだけ指定してください。 • LUTの範囲に、対応していない値が指定されています。次の点を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> - DOMAIN_MINは「0 0 0」、DOMAIN_MAXは「1 1 1」のみに対応しています。 - LUT_1D_INPUT_RANGE、LUT_3D_INPUT_RANGEは「0 1」のみに対応しています。 • LUT_IN_VIDEO_RANGE、LUT_OUT_VIDEO_RANGEには対応していません。 • このファイルフォーマットには対応していません。次の点を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> - 1D-LUTまたは3D-LUTどちらかのデータを記述してください。 - テーブルデータはRGB3つの値を「0.1 0.1 0.1」のように0~1の範囲で指定してください。
33. ICCプロファイル作成エラー	<ul style="list-style-type: none"> • ICCプロファイルを保存できませんでした。過度な手動調整をおこない、数値がICCプロファイルの規格外になると、ICCプロファイルが作成できない場合があります。手動調整をやり直してください。
34. 接続エラー（不正な接続ファイル）	<ul style="list-style-type: none"> • 接続ファイルをダウンロードしなおして、操作をやり直してください。
35. 接続エラー（Gateway）	<ul style="list-style-type: none"> • ColorNavigator Networkへの接続に失敗しました。ネットワークの状態やColorNavigator Gatewayの設定を確認してください。

Windowsのディスプレイ調整機能をオフにする

参考

- ・ ユーザーアカウントに「コンピュータの管理者」権限が必要となります。
- ・ Windows 10の画像を例として表示しています。

1. 「色の管理」を開きます。

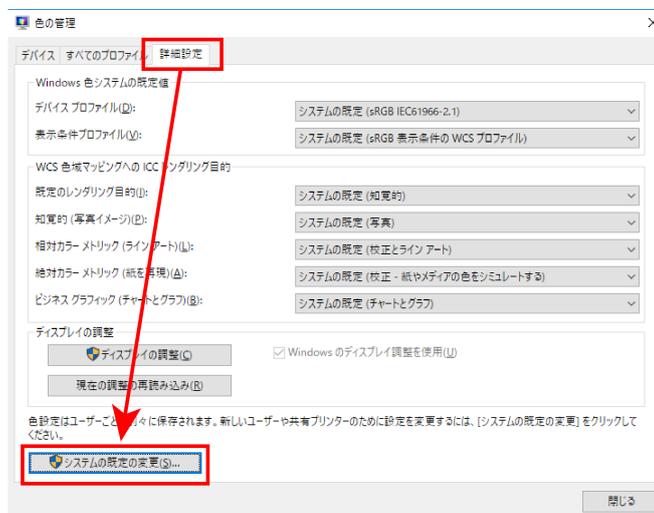
参考

- ・ Windowsのファイル検索で「色の管理」または「colorcpl」と入力して「最も一致する検索結果」に表示される項目をクリックすると、「色の管理」画面が表示されます。

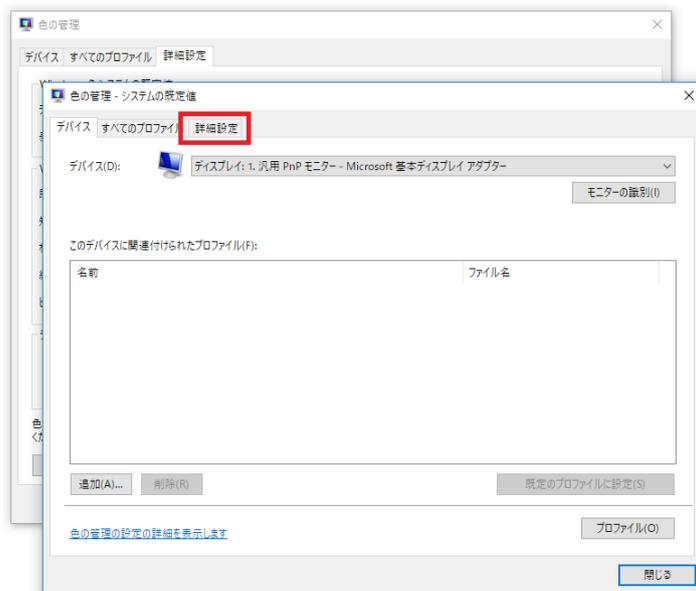
1. デスクトップ上のアイコンがない場所で、右クリックします。
2. 表示されるメニューから「ディスプレイ設定」をクリックします。
「ディスプレイ」画面が表示されます。
3. 画面をスクロールして、「ディスプレイの詳細設定」をクリックし、「ディスプレイ1のアダプターのプロパティを表示します」をクリックします。
ディスプレイアダプターのプロパティ画面が表示されます。
4. ディスプレイアダプターのプロパティ画面で、「色の管理」タブをクリックして「色の管理」ボタンをクリックします。
「色の管理」画面が表示されます。

2. 「色の管理」画面の「詳細設定」タブをクリックして「システムの既定の変更」をクリックします。

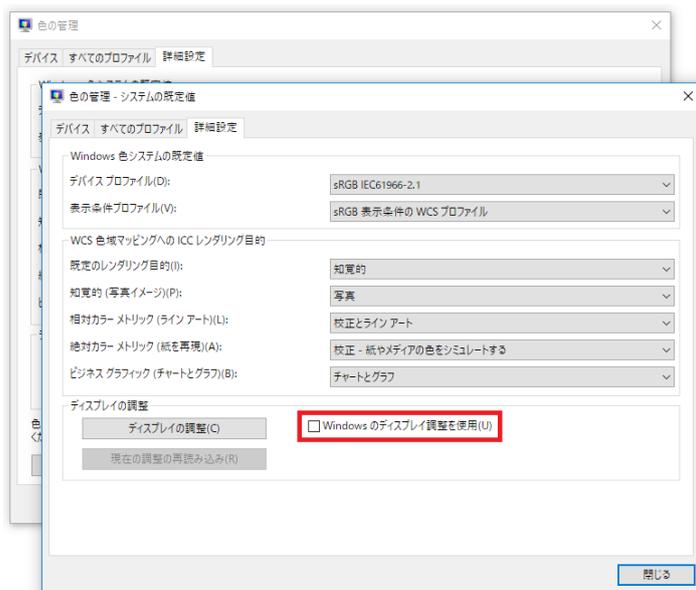
「色の管理-システムの既定値」画面が表示されます。



3. 「色の管理-システムの既定値」画面の「詳細設定」タブをクリックします。



4. 「Windowsのディスプレイ調整を使用」のチェックをオフにします。



5. 「閉じる」をクリックします。

「色の管理-システムの既定値」画面が閉じます。

6. 「色の管理」画面で「閉じる」をクリックします。

「色の管理」画面が閉じます。

7. ディスプレイアダプターのプロパティ画面を閉じます。

8. 「ディスプレイ」画面を閉じます。

付録

商標

Adobe、Acrobat、Reader、Creative Cloud、Lightroom、Photoshop、Photoshopロゴ、Photoshop ElementsはAdobe(アドビ)の米国およびその他の国における登録商標です。

Apple、MacBook Pro、macOS、macOS Big Sur、macOS Catalina、macOS Monterey、macOS Venturaは米国およびその他の国や地域におけるApple Inc.の登録商標です。

DatacolorはDataColor Holding AGの登録商標です。

Spyder3、Spyder4、Spyder5はDataColor Holding AGの商標です。

GRACoL、IDEAllianceはInternational Digital Enterprise Allianceの登録商標です。

LinuxはLinus Torvalds氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft、Windows、Internet Explorer、Microsoft Edge、.NET Framework、SQL Server、Windows Server、Active Directoryは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Photo ResearchはNOVANTA Corporationの登録商標です。

Red Hat、RHELはRed Hat, Inc.の登録商標です。

ColorMunki、X-RiteはX-Rite, Incorporatedの登録商標または商標です。

KONICA MINOLTAはコニカミノルタ株式会社の登録商標です。

TOPCONは株式会社トプコンの登録商標です。

EIZO、EIZOロゴ、ColorEdge、CuratOR、DuraVision、FlexScan、FORIS、RadiCS、RadiForce、RadiNET、Raptor、ScreenManagerはEIZO株式会社の日本およびその他の国における登録商標です。

ColorEdge Tablet Controller、ColorNavigator、EcoView NET、EIZO EasyPIX、EIZO Monitor Configurator、EIZO ScreenSlicer、G-Ignition、i-Sound、Quick Color Match、RadiLight、Re/Vue、SafeGuard、Screen Administrator、Screen InStyle、ScreenCleaner、UniColor ProはEIZO株式会社の商標です。

その他の会社名、商品名およびロゴマークは所有者の商標または登録商標です。

ライセンス

この製品にはオープンソースソフトウェアが含まれています。

オープンソースソフトウェアのうちGPL (GNU GENERAL PUBLIC LICENSE)の条件にて利用許諾されるものが含まれる場合には、GPLの利用許諾条件に従い、当社は次のコンタクト情報宛てにコンタクトしてきた個人、団体に対し、お買い上げ後、少なくとも3年間、実費にてGPLソフトウェアに対応するソースコードを、CD-ROMなどの媒体により頒布いたします。

また、LGPL (GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE) の条件にて利用許諾されるものが含まれる場合についても、上述のGPLの場合と同様の手続きにてソースコードを頒布いたします。

コンタクト情報

www.eizo.co.jp/support/product/contact.html

GPL/LGPLその他に基づきライセンスされるオープンソースソフトウェアを除き、この製品に含まれるソフトウェアの譲渡、コピー、逆アセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリングは禁じられています。また、この製品に含まれるすべてのソフトウェアの輸出法令に違反した輸出行為は禁じられています。

